

工事店様用

余剰買取向け

YRSPAB エコめがね RS 余剰 10 年プラン

＜パソコン接続タイプ＞

〔太陽光発電 遠隔モニタリングサービス〕

施工・取扱説明書 Ver2.5

この施工・取扱説明書は、RS 余剰 10 年プラン＜パソコン接続タイプ＞の施工・取扱方法について説明しています。

はじめにこの施工・取扱説明書をよくお読みになり、十分ご理解のうえ正しく安全にご使用ください。

- 施工に際して記載内容を守ってください。
- 施工は電気の知識を有する専門家が行ってください。

目次

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意	4
施工・設定の流れ	13
本製品について	14

施工手順

部材・機器の準備	20
システムの配線について	24
計測ユニットの設置	25
パワーコンディショナの配線・設定	28
主幹用電流センサの設置	34
スマートメータの配線・設定	36
電圧検知用ケーブルの配線	41
LAN ケーブルの配線	43
設置/配線完了後の作業	44
フロントカバーの取り付け	45
LTE ルータの設置	46
計測ユニットの起動	49
初期設定	51
パワーコンディショナの動作確認	59
出力制御設定をする	61

取扱方法

表示部の見方	68
通信確認を実施する	69
パワーコンディショナを操作する	71
瞬時値確認を実施する	74
ソフトウェアを更新する	75

目次(つづき)

保守

パワーコンディショナを交換・追加する	78
主幹用電流センサ、ケーブルを交換する	81
計測ユニットを交換する	83
LTE ルータを交換する	85

その他

メニュー遷移	86
--------	----

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意

安全区分/図記号について

誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害を、次のように区分して説明しています。

 警告	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり、万一の場合には重傷や死亡に至るおそれがあります。
---	---

 注意	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、ときに軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害 ^{※1} を受けるおそれがあります。
---	--

※1：物的損害とは、製品の故障、誤動作などでお客様の設備や財物に損害を与えることを示します。

お守りいただく内容を次の図記号で説明します。

	●一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告
	●分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	●一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示
	●感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告

● 計測ユニット関連 (P.4～P.6)

安全上の注意

 警告	
	計測ユニットは、幼児の手の届かないところに設置して下さい。 感電による傷害が起こる可能性があります。
	計測ユニットに発火物を近づけたり、可燃性ガスを含むスプレーを吹き付けしないで下さい。 発煙・発火・火災・爆発のおそれがあります。
	計測ユニットにぬれた手で触れないでください。 感電による傷害や機器故障のおそれがあります。
	計測ユニットを分解・改造しないでください。 感電による傷害や発煙・発火・火災が起こるおそれがあります。電波法でも禁止されています。
	計測ユニットを配線する際は、計測ユニットの電源（計測ユニット用ブレーカ）を必ずオフにしてください。 感電による傷害が起こるおそれがあります。
	計測ユニットの未使用の端子に電力量計などを接続しないでください。 接続すると電力量計などが破損することがあります。
	計測ユニットの電圧検知用ケーブルには、Φ2.0 銅単線（VVF）を使用してください。 焼損のおそれがあります。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

警告(つづき)

	計測ユニット-スマートメータのパルス端子間の配線には、推奨ケーブル（CPEVS-φ0.9-1P相当）を使用してください。ケーブルの長さは50m以下としてください。 スマートメータのパルス信号を計測ユニットが正しく読み取れない可能性があります。
	計測ユニットの設置時には計測ユニット用の個別ブレーカ（計測ユニット用ブレーカ）を使用してください。 計測ユニットの故障が発生した場合、焼損のおそれがあります
	電源を入れる前に、接続が正しいことを確認してください。 誤接続があると、正しく計測ができない場合や、計測ユニット、スマートメータ等が破損するおそれがあります。

注意

	計測ユニットの設置は、電気設備技術基準、内線規程に従い、第1種または第2種電気工事士が行ってください。 感電による傷害が起こるおそれがあります。
	薄い木材や木材でない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、市販のボードアンカーを使って、壁面にしっかりと固定してください。 落下により怪我をするおそれがあります。
	強酸、有機溶剤、火の近くなどの環境下では使用しないでください。 故障の原因となるおそれがあります。
	計測ユニットを、次のような場所には設置しないでください。 焼損のおそれがあります。 ● 野外や軒下等の雨水があたる場所 ● 洗面所、脱衣所、作業場、調理場などの湯気の当たる場所、もしくは湿度が25 ~ 85%RH 以外の場所
	計測ユニットを振動、衝撃の影響が大きいところや、落下するおそれがあるところに設置しないでください。 落下により怪我をするおそれがあります。
	ノックアウト加工をする際は、突起やバリをやすりなどで確実に除去してください。 配線を傷つけたり、けがの原因となります。
	計測ユニットの端子ねじは、 $1.4 \pm 0.2N \cdot m$ で確実に締め付けてください。 接触不良による焼損、および、過剰トルクによる端子台破損のおそれがあります。

安全上の要点

以下に示す項目は、安全を確保する上で必要なことですので、必ずお守りください。

- 計測ユニットを廃棄する場合は、地方自治体の条例または規則等に従ってください。
- 計測ユニットは、状態表示ランプを下方向にして垂直な壁にねじで確実に固定してください。
- 計測ユニットの端子台への配線は、同梱の圧着端子を使用してください。
- 計測ユニットに発煙、発熱、その他の異常を感じた場合は、計測ユニット用ブレーカをオフにしてください。
- 主幹用電流センサの定格は100Aです。20kW（100A × 100V × 2）まで計測できます。
- 計測ユニットを押入や階段下など、通風を妨げるような場所に設置しないでください。
- 振動、衝撃の影響が大きいところには保管（輸送を含む）しないでください。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

使用上の注意

- 計測ユニットは静電気によって故障、破損することがあります。計測ユニットに触れる前に身近な金属に手を触れるなどして身体の静電気を取り除くようにしてください。
- 計測ユニットおよび主幹用電流センサは計量法に定める指定機関が行う検定に合格した特定計量器ではありませんので、電力量の証明には使用できません。目安としてご利用ください。
- なお、発電量などの数値の表示精度はパワーコンディショナ（PCS）および主幹用電流センサの性能に依存します。
- 出力制御設定を行った後、計測ユニットとパワーコンディショナの接続が正しく行われていないとパワーコンディショナの発電が停止します。必ず本取扱説明書に記載の方法で出力制御設定を行ってください。
- 計測ユニットは接続対象機種のパワーコンディショナ以外に接続しないでください。
接続対象機種に関しては以下のサイトでご確認いただけます。
https://www.eco-megane.jp/yrs_pcs/
- ケーブルを強く引っ張らないでください。
- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは正しく接続してください。
- 複数台接続時の PCS 間通信ケーブルは正しく接続してください。
- パワーコンディショナを複数台接続する場合は、同一シリーズのみで接続してください。
- 他機種のメンテナンスツールを使用しないでください。計測ユニットが故障するおそれがあります。
- 通信ケーブル（別売）は指定のものをご使用ください。
- 計測ユニットの落下により稀に怪我をする恐れがあります。計測ユニットを振動、衝撃の影響が大きいところに取付けないでください。また、木材ではない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、必要により市販のボードアンカーにより、しっかりと壁掛け用取付板を壁面に固定してください。
- スマートメータを使用される際は、パルス入力の電線が計測ユニットの端子に確実に差し込まれていることを確認してください。
- 主幹用電流センサは、落としたり衝撃を加えたりすると正確な計測ができなくなります。
- 主幹用電流センサの向き、設置場所を誤ると正確な計測ができません。
- 計測ユニットは無線による通信を行います。無線通信による影響が発生する場合は、影響を与えている可能性のある機器からできるだけ離して設置し、影響が無くなった事を確認の上、計測ユニットを使用してください。
- 計測ユニットは 2.4GHz 無線による通信を行います。電子レンジ、ワイヤレス AV 機器など、強力な電波が発生する装置からできるだけ離して設置してください。
- 計測ユニット電波干渉の事例が発生した場合は、計測ユニットの電源（計測ユニット用ブレーカ）をオフにし、お買い上げの販売店に連絡してください。
- 初期設定時、使用環境に合わせて、正しく種別設定〔買取モード（余剰買取）、電流センサの有無など〕を行ってください。設定を間違えると、必要なデータが蓄積できなくなることがあります。

電波干渉についての注意

計測ユニットの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器の他、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・ 計測ユニットを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 万一、計測ユニットから移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- ・ その他、計測ユニットから移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書裏表紙に記載のお問い合わせ先にご相談ください。

■ 製品の表記の説明



- ① 「 2.4 」： 2.4GHz帯を使用する無線設備を意味します。
- ② 「DS/OF」： DS-SS 方式およびOFDM 方式の変調方式が可能であることを意味します。
- ③ 「 4 」： 想定される干渉距離が40m 以下であることを意味します。
- ④ 「 ■ ■ ■ 」： 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

● LTE ルータ関連 (P.7~P.11)

安全上の注意

 警告	
	ACアダプタは必ず LTE ルータに付属の LTE ルータ用 AC アダプタをお使いください。また、LTE ルータ用 AC アダプタを他の装置に使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	LTE ルータ用 AC アダプタは、日本国内 AC100V (50/60Hz) の電源専用です。 他の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
	LTE ルータ用 AC アダプタの接続は、テーブルタップ、分岐コンセント、分岐ソケットを使用したタコ足配線にしないでください。 電源コンセントが過熱、劣化し、火災・感電の原因となります。
	AC アダプタのコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、AC アダプタのコードの上にものを載せないでください。 コードの破損による、火災・感電の原因となります。
	LTE ルータ用 AC アダプタは屋内専用ですので、屋外で使用しないでください。 雨水などがかかったり、ほこりなどが混入したりすることにより、感電・故障の原因となります。
	ぬれた手で AC アダプタを電源コンセントに抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	差込口が 2 つ以上ある壁の電源コンセントに他の電気製品の AC アダプタを差し込む場合は、合計の電流値が電源コンセントの最大値を超えないように注意してください。 火災・感電・故障の原因となります。
	LTE ルータの近くの電源コンセントを使用し、AC アダプタの電源プラグは確実に差し込んでください。 AC アダプタに金属などが触れると、火災・感電の原因になります。
	LTE ルータの上や近くに小さな金属類を置かないでください。 LTE ルータの中に入った場合、火災・感電の原因となります。
	LTE ルータをふる場や加湿器のそばなど、湿度の高いところ (湿度 90% をこえる、または結露する場所) では設置および使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	引火や爆発の恐れがある場所 (ガソリンスタンドなど) や引火性のガスの発生するような場所での使用や放置はしないでください。 爆発・発火・破裂・故障・火災の原因となります。
	LTE ルータの上や近くに植木鉢・コップ・化粧品・薬品など、液体の入った容器を置かないでください。 LTE ルータにこぼれたり、LTE ルータの中に入った場合、火災・感電の原因となります。
	ネジなどの小さい部品は幼児の手の届かないところに保管してください。 万一、飲み込んでしまった場合はすぐに医師の治療を受けてください。
	LTE ルータ内部の点検・調整・清掃・修理は、危険ですから絶対に行わないでください。 LTE ルータ内部の点検・調整・清掃・修理は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

 警告(つづき)	
	<p>LTE ルータのコネクタ部分などの開口部から内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を入れないでください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>LTE ルータの内部や周囲でエアダスターやダストスプレーなど、可燃性ガスを使用したスプレーを使用しないでください。</p> <p>引火による爆発、火災の原因となります。</p>
	<p>LTE ルータの USB ポートに変形した USB コネクタを接続しないでください。</p> <p>火災や故障の原因となります。</p>
	<p>LTE ルータの USB ポートに接続する際は、無理に力を加えないでください。</p> <p>火災や故障の原因となります。</p>
	<p>LTE ルータ内部の分解・改造は絶対に行わないでください。</p> <p>火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>ぬれた手で LTE ルータを操作したり、接続したりしないでください。</p> <p>感電の原因となります。</p>
	<p>LTE ルータに水などの液体が入ったり、LTE ルータをぬらしたりしないようにご注意ください。</p> <p>火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>万一、LTE ルータを落したり、破損したりした場合、AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>万一、LTE ルータの内部に水などの液体が入った場合、AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>万一、異物が LTE ルータの内部に入った場合、AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>AC アダプタのコードが傷んだ（芯線の露出、断線など）場合、すぐに AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>万一、LTE ルータから煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のときは、すぐに AC アダプタを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなることを確認して、お買い上げの販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>高精度な電子機器の近くでは LTE ルータを使用しないでください。</p> <p>電子機器に影響を与える場合があります。特に医療機器をお使いの場合は、医療機器のメーカー・販売店に電波の影響についてご確認ください。</p>
	<p>植込み型医療機器などの近くで LTE ルータを使用する場合は、電波によりそれらの機器に影響を与える可能性がありますので、以下の点にご確認ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 植込み型医療機器の使用者が 15cm 以内に近づく可能性のある場所に本体や無線アンテナを設置しないようにしてください。 2. 医療機関の屋内で使用する場合は付近に医療機器が無い場所に設置して下さい。またその医療機関の機器管理者の指示に従ってください。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

警告(つづき)

	<p>航空機内や病院内などの無線機器の使用を禁止された区域では、LTE ルータの電源を切ってください。</p> <p>電子機器や医療機器に影響を与え、事故の原因となります。</p>
---	--

注意

	<p>濡れた手で LTE ルータ本体に触れないでください。</p> <p>感電の原因となることがあります。</p>
	<p>機器およびケーブルを接続する場合には、必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。</p> <p>AC アダプタを電源コンセントに接続したまま、機器およびケーブルの接続を行うと、感電の原因となることがあります。</p>
	<p>LTE ルータを移動させる場合は、LTE ルータ用 AC アダプタを電源コンセントから抜き、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。</p> <p>コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>
	<p>LTE ルータをご使用にならないときは、安全のため必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。</p>
	<p>直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒーターなどの発熱器のそば、炎天下の車内など温度の高いところで使用、保管、放置しないでください。</p> <p>機器の変形やカバー、コードの破損により、火災・感電・故障の原因となることがあります。また、LTE ルータの一部が熱くなり、やけどの原因となったり、内部の温度が上がリ、火災の原因となったりすることがあります。</p>
	<p>LTE ルータを油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。</p> <p>火災・感電・故障の原因となることがあります。</p>
	<p>温度変化の激しい場所（クーラーや暖房機のそばなど）に置かないでください。</p> <p>LTE ルータ内部に結露が発生し、火災・感電・故障の原因となります。</p>
	<p>LTE ルータを風通しの悪いところに置かないでください。次のような使いかたはしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収納庫や本棚、箱などの風通しの悪い狭い場所に押し込む ・じゅうたんや布団の上に置く ・テーブルクロスなどの布や毛布を掛けたり包んだりする
	<p>LTE ルータを不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いたところなど）に置かないでください。また、LTE ルータの上に重い物を置かないでください。</p> <p>落ちたりして、けがの原因となることがあります。</p>
	<p>LTE ルータを振動、衝撃の多い場所に置かないでください。</p> <p>落ちたりして、けがの原因となることがあります。</p>
	<p>LTE ルータを壁掛けなどで設置する際は必ず添付のホルダーを使用して周囲に十分なスペースを確保してください。</p>
	<p>LTE ルータは垂直面以外の壁や天井などには取り付けしないでください。また衝撃や振動を加えないでください。</p> <p>振動などで落ちたりして、けがの原因となることがあります。</p>

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

注意(つづき)

	ベニヤ板などのやわらかい壁には設置しないでください。確実に固定できる場所に設置してください。 ネジが外れ落下し、故障、けがの原因となります。
	LTE ルータの上に他の製品を重ねて置かないでください。 内部温度が上がり、火災の原因となることがあります。
	LTE ルータの使用直後に高温になる場合があります、やけどなどの恐れがありますので注意してください。
	LTE ルータの上に物を載せたり、LTE ルータに乗ったりしないでください。 壊れるなどして、けがの原因となることがあります。
	LTE ルータの SIM カバーを取り外さないでください。また、カバーが外れた場合は外れたまま使用しないでください。 そのまま使用すると感電・故障の原因となります。
	通信用コネクタにケーブルを接続する前に必ず正しいケーブルであることを確認してください。 異なったケーブルを接続すると、火災・感電・故障の原因となることがあります。
	雷が鳴っているときは、AC アダプタに触れたり、機器の接続をしたりしないでください。 感電の原因となることがあります。
	落雷のおそれがあるときには、必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いてご使用をお控えください。 火災・感電の原因となることがあります。
	水滴がついている場合は、乾いた布でふき取ってください。
	AC アダプタの電源プラグと電源コンセントの間にほこりをためないようにときどき清掃してください。 また、AC アダプタの電源プラグがしっかりと差し込まれているかときどき確認してください。
	LTE ルータのお手入れを行う際には、安全のため必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

使用上の注意

■ 保管および使用環境に関する注意

- 安全に正しくお使いいただくために、次のようなところでのご使用は避けてください。
 - ・ 振動が多い場所
 - ・ 気化した薬品が充満した場所や、薬品に触れる場所
 - ・ 電化製品・AV・OA 機器などの磁気を帯びている場所や電磁波が発生している場所（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）
 - ・ 高周波雑音を発生する高周波ミシン、電気溶接機などが近くにある場所
- LTE ルータをラジオやテレビなどのすぐそばで使用すると、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。また、強い磁界を発生する製品が近くにあると、逆に LTE ルータに雑音が入ることがあります。このような場合は離して使用してください。
- LTE ルータを壁掛けで使用する場合、同じ場所に長期間設置すると、壁紙が変色（色あせ）する場合があります。

■ 取り扱い上の禁止事項

- 落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。LTE ルータが正常に動作しないことがあります。
- LTE ルータを移動するときは、接続コードを外してください。故障の原因となることがあります。
- 動作中に接続コード類が外れたり、接続が不安定になったりすると誤作動の原因となります。動作中は、コネクタの接続部には触れないでください。
- LTE ルータの電源を切ったあと、すぐに電源を入れ直さないでください。10 秒以上の間隔をあけてから電源を入れてください。すぐに電源を入れると電源が入らなくなることがあります。

■ 日ごろのお手入れ

- LTE ルータの汚れは、やわらかい布に水、または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。この時、安全のために必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いてください。
- ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いてふきますと、変形や変色の原因となることがあります。また、殺虫剤などをかけた場合も変形や変色の原因となることがありますのでご注意ください。
- 水滴がついている場合は、乾いた布でふき取ってください。

■ LTE に関する注意事項

- LTE ルータは、電波法に基づく技術基準適合証明等および電気通信事業法に基づく技術基準適合認定等を遵守しております。改造された LTE ルータは絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法/電気通信事業法に抵触します。
- LTE ルータは、NTT ドコモ LTE サービスエリア内でご使用ください。LTE サービスエリアは以下のサイトでご確認いただけます。
<https://www.nttdocomo.co.jp/support/area/>
- LTE サービスエリア内でも電波が伝わりにくい場所（屋内・車中・地下・トンネル内・ビルの陰・山間部など）では、通信で着かなかったり通信速度が低下したりする場合があります。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい場所であってもご使用になれない場合があります。あらかじめご了承ください。
- LTE の電波状態や伝送速度は、建物や家具、移動速度などの周辺環境により大きく変動します。

■ その他の注意事項

- 通信中に LTE ルータの電源が切れたり、LTE ルータを取り外したりすると、通信ができなくなり、データが壊れることがあります。
- LTE ルータの USB ポートに USB ケーブルを接続する際や接続している間は、LTE ルータに無理な力が加わらないようにしてください。故障や破損の原因となります。
- LTE ルータの USB ポートに USB ケーブルを接続する際、電源電圧は 5V でご使用ください。それ以外の電圧を加えないでください。また、LTE ルータの USB ポートに USB ケーブルを接続する際は、AC アダプタに直接接続して使用してください。USB ハブや USB 延長ケーブルを使用すると正しく動作しない場合があります。
- ケーブルの抜き差しの際は、必ずコネクタ部分を持って行ってください。また、ケーブル取り付け時は、コネクタを奥まで確実に差し込んでください。
- LTE ルータのプラスチック部品の一部が、光の具合によってはキズのように見える場合があります。プラスチック製品の製造過程で生じることであり、構造上および機能上は問題ありません。

安全上の注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

● スマートメータ関連



	<p>スマートメータをご使用される場合、電源・負荷接続端子ねじは既定のトルク (5 ~ 7N・m) で確実に締め付けてください。</p> <p>規定のトルク未満では、発熱、ショート、火災の原因になり、規定のトルク超過では、計器を破損するおそれがあります。</p>
	<p>スマートメータをご使用される場合、スマートメータのパルス定数の設定を忘れずに行ってください。</p> <p>設定が適切でない場合、スマートメータで計測された電力量を計測ユニットが正しく読み取れません。</p>

● 製品全般 (計測ユニット、LTE ルータ、スマートメータ) の使用上の注意

使用上の注意

- 本製品を次のような場所に設置しないでください。
 - 直射日光の当たるところ
 - 虫や小動物が多いところ
 - 温度変化が激しいところ
 - 潮風にさらされるところ
 - 風雨にさらされるところ
 - 屋外や軒下等の雨水があたるところ
 - 水を浴びる、水の侵入があるところ
 - 氷結するところ
 - 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有毒ガスのあるところ
 - 浴室、脱衣所、台所等の水蒸気、油蒸気、結露のあるところ
 - 浴室、脱衣所、台所等の水蒸気、油蒸気、結露のあるところ
 - 使用温度範囲以外になるところ
 - 計測ユニットの使用温度範囲：-20 ~ +50 °C
 - LTEルータの使用温度範囲：-20 ~ +60 °C
 - スマートメータの使用温度範囲：-10 ~ +40 °C(日平均35°C以下)
 - 使用湿度範囲以外になるところ
 - 計測ユニットの使用湿度範囲：25 ~ 95%RH
 - LTEルータの使用湿度範囲：10 ~ 90%RH (結露なきこと)
 - スマートメータの使用湿度範囲：90%RH以下(結露なきこと)
 - 標高2000mを超えるところ
 - 塵埃 (粉塵、砂塵、綿木コリ、金属粉、オガ屑、ワラ屑等) の多いところ
 - 金属・金具類に覆われた場所、金属の壁への設置、金属の机の上、金属製品のそば、電子レンジおよび無線に影響を与える機器 (電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器、電話機、FAX、パソコン、パソコン周辺機器など) の近く

- 本製品を保管する場合は、以下の温湿度範囲で保管してください。

保管温度範囲

計測ユニットの保管温度：-20 ~ +50°C
スマートメータの保管温度：-20 ~ +60°C(日平均35°C以下)

保管湿度範囲

計測ユニットの保管湿度：25 ~ 95%RH
スマートメータの保管湿度：90%RH以下(結露なきこと)

※LTE ルータは他機器に準じた環境で保管してください。

施工・設定の流れ

部材・機器を準備します (P.20)



システム配線について確認します (P.24)



計測ユニットを設置します (P.25)



通信ケーブルを配線し、パワーコンディショナの
設定を行います(P.28)

- パワーコンディショナのユニット No.設定(P.28)
- パワーコンディショナの終端抵抗設定(P.29)
- パワーコンディショナと計測ユニットの配線(P.30)

必ず各パワーコンディショナのユニットNo.
と終端抵抗の設定を行ってください。



主幹用電流センサを設置します (P.34)



スマートメータにパルスケーブルを配線し、設定を行います (P.36)



計測ユニットに電圧検知用ケーブルを配線します (P.41)



計測ユニットに LAN ケーブルの配線をします (P.43)



LTE ルータを設置・配線します (P.46)



計測ユニットの初期設定を行います (P.49)

- 計測ユニットの起動(P.49)
- 初期設定(P.51)



初期設定の完了

- パワーコンディショナの動作確認(P.59)
- 施工結果記入シートにシステム構成情報を記載し、保管してください



必要な場合のみ

出力制御設定を行います (P.61)

- 出力制御概要 (P.61)
- 出力制御設定値の入手 (P.61)
- ソフトウェア バージョンの確認 (P.62)
- 出力制御設定をする (P.63)

現地に行く前に必ず出力制御設定値を
入手してください。

本製品について

● 仕様

■ 計測ユニット

項目	仕様
■ 型式	KP-MU1S-M-NE
■ 使用周囲温度	-20 ~ +50 °C (氷結なきこと)
■ 保存温度	-20 ~ +50 °C (氷結なきこと)
■ 使用周囲湿度	相対湿度 25 ~ 95 % (結露なきこと)
■ 保存湿度	相対湿度 25 ~ 95 % (結露なきこと)
■ 接続可能 パワーコンディ ショナ型式	<オムロン製> KP□K / KP□K2 シリーズ KP□M / KP□M2 シリーズ (KP□M* *KCシリーズは対象外になります。) KP□R シリーズ KPK-A□ シリーズ KPR-A□ シリーズ KPW-A□ シリーズ 出力制御対応パワーコンディショナは、型式末尾に「-A」のある形式となります。 (KP□M-SJ4、KP□M2については、型式末尾に「-A」がないものも出力制御に対応しています)
■ 接続可能 パワーコンディ ショナ台数	最大接続台数 : 6 台 (同一シリーズに限る)
■ 電源	単相 3 線 AC100V
■ 消費電力 [W]	最大 6.5W
■ 入力容量 [VA]	最大 11VA
■ 質量	約 800g
■ 外形寸法	幅 130 mm × 奥行 60 mm × 高さ 260 mm

本製品について(つづき)

■ LTE ルータ

項目	仕様
■ 型式	EA01A
■ 使用周囲温度	-20 ~ +60 °C
■ 使用周囲湿度	10%~90%(結露なきこと)
■ 電源	AC100V (USB 給電)
■ 消費電力 [W]	有線 LAN 接続時 : 通信時約 3.2W 最大約 4.2W
■ 入力容量 [VA]	最大約 4.2VA
■ 質量	約 50g(本体のみ)
■ 外形寸法	幅 80 mm × 奥行 54 mm × 高さ 16 mm (本体のみ、突起部除く)

■ スマートメータ

項目	仕様
■ 型式	S2MS-RS22
■ 使用周囲温度	-10 ~ +40 °C (ただし、日平均温度 35°C以下)
■ 保存温度	-20 ~ +60 °C (ただし、日平均温度 35°C以下)
■ 使用周囲湿度	相対湿度 90 %以下(結露なきこと)
■ 保存湿度	相対湿度 90 %以下(結露なきこと)
■ 電源	単相 3 線 AC100V
■ 質量	約 500g
■ 外形寸法	幅 75 mm × 奥行 69.5 mm × 高さ 100 mm

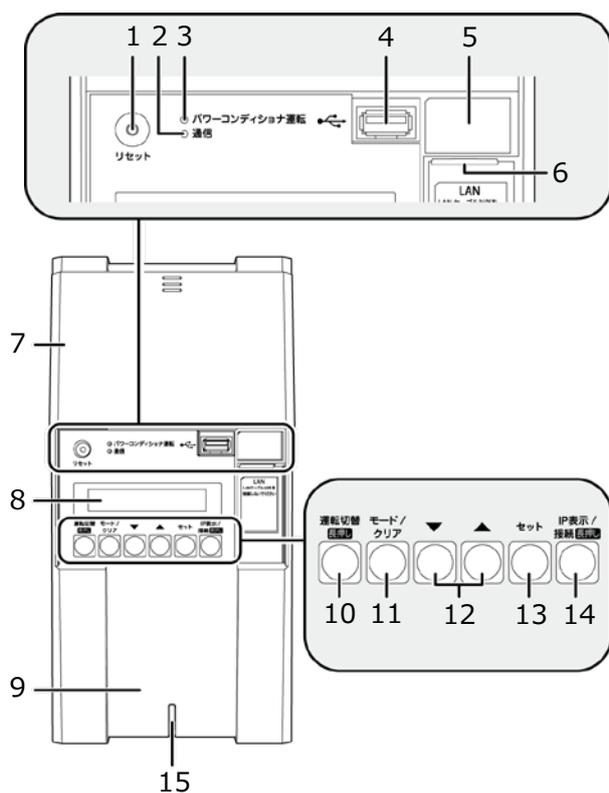
本製品について(つづき)

● 各機器の詳細

■ 計測ユニット(EIG センサ)

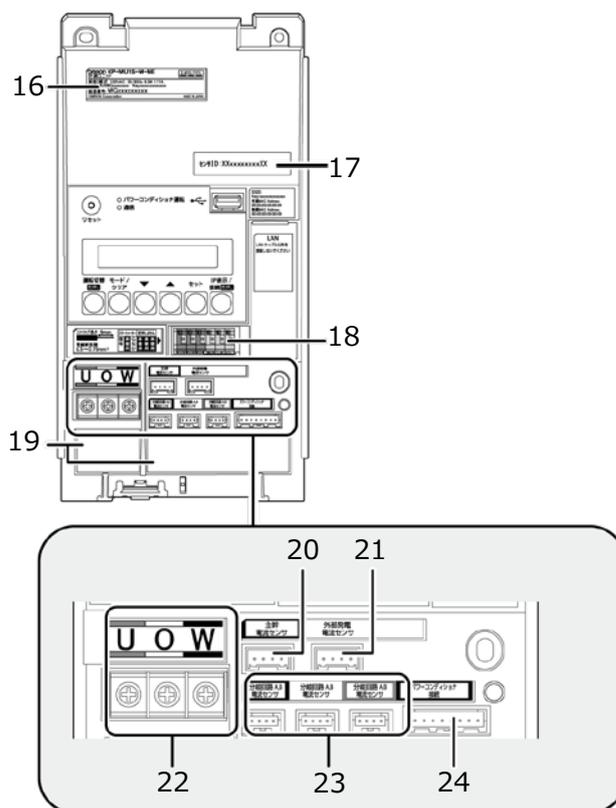
◆ 正面図

スライドカバーを開けた状態



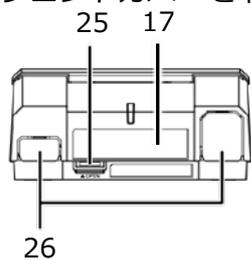
◆ 正面図

フロントカバーを取り外した状態



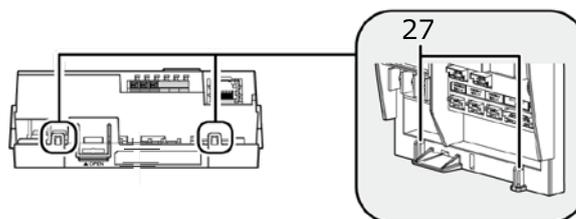
◆ 底面図

フロントカバーを取り付けた状態



◆ 底面図

フロントカバーを取り外した状態



本製品について(つづき)

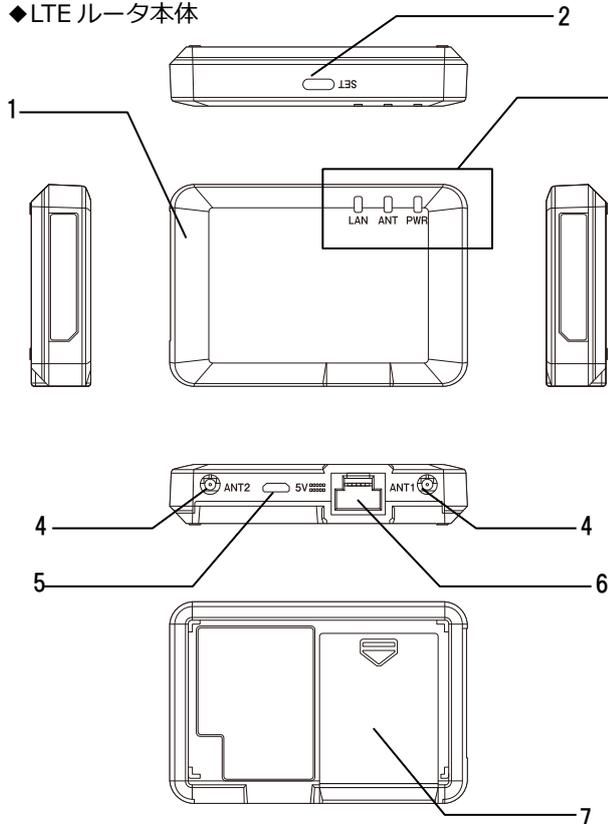
- 1 **リセットスイッチ**
計測ユニットを再起動します。
- 2 **通信ランプ**
使用しません。
- 3 **パワーコンディショナ運転ランプ**
パワーコンディショナの運転状態を表示します。
 - 緑色点灯：連系運転中
 - 橙色点灯：自立運転中
 - 赤色点灯：運転停止中
 - 消灯：パワーコンディショナが無応答時
 - パワーコンディショナを複数台設置し、各パワーコンディショナの運転状態が異なる場合は、以下の優先順位で表示します。
 - ① 連系運転中（緑色点灯）
 - ② 自立運転中（橙色点灯）
 - ③ 運転停止中（赤色点灯）

(例：パワーコンディショナ3台を設置し、うち1台が連系運転中かつ2台が運転停止中の場合は、緑色点灯します。)
- 4 **USBコネクタ (Type A)**
ソフトウェア更新をする際に、USBメモリを接続します。
- 5 **SSID、パスワード、有線MACアドレス、無線MACアドレス**
機器固有の英数字が記載されています。
- 6 **LANポート**
LTEルータとLANケーブルで接続します。
- 7 **スライドカバー**
- 8 **表示部**
発電電力やエラーコード、接続されているパワーコンディショナの運転状態などを表示します。
- 9 **フロントカバー**
- 10 **運転切替ボタン**
接続されているパワーコンディショナの運転状態を切り替えます。
- 11 **モード/クリアボタン**
表示部の表示内容の切り替えとキャンセル操作に使用します。
- 12 **▼ / ▲ボタン**
表示中の項目の選択に使用します。
- 13 **セットボタン**
表示中の項目の決定に使用します。
- 14 **IP表示/ 接続ボタン**
短押し：計測ユニットのIPアドレスを表示します。
- 15 **状態表示ランプ**
計測ユニットの動作状態を表示します。
 - (ア) 緑色点灯：通常動作中
 - (イ) 緑色点滅：初期設定完了前
 - (ウ) 橙色点滅：停電中
 - (エ) 赤色点灯：自動復旧が不可能な異常発生中
 - (オ) 赤色点滅：自動復旧の可能性のある異常発生中
 - (カ) 消灯：パワーコンディショナが夜間発電停止状態かつ、無操作時
- 16 **製造番号**
機器固有の英数字が記載されています。
- 17 **センサーID**
お客様固有の数字が記載されます。
- 18 **パルス端子**
パルスケーブルを接続する端子です。
- 19 **配線口**
配線時に使用します。
- 20 **主幹電流センサケーブル接続コネクタ**
主幹電流センサケーブルを接続するコネクタです。
- 21 **外部発電機電流センサケーブル接続コネクタ**
使用しません。
- 22 **端子台[U/O/W]**
電圧検知用ケーブルを接続します。
- 23 **分岐回路A,B 電流センサケーブル接続コネクタ**
使用しません。
- 24 **パワコン・計測ユニット間通信ケーブル接続コネクタ**
パワーコンディショナと計測ユニット間で通信を行うためのパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを接続するコネクタです。
- 25 **フロントカバー取り外しボタン**
- 26 **ロックアウトホール**
露出配線の場合に使用します。
- 27 **結束バンド差し込み口**
露出配線の場合に、配線ケーブルを同梱の結束バンドで固定します。

本製品について(つづき)

■ LTE ルータ

◆LTE ルータ本体



1 LTEルータ本体

データ通信を行う装置です。

2 SETボタン

(使用しません)

3 LEDランプ

LTEルータの動作状況を表示します。

● LAN

- 緑点灯：内蔵アンテナモードと有線LANで動作中
- 赤点灯：規格外のUSBデバイスを接続されたとき
- 消灯：高温で起動できないとき

● ANT

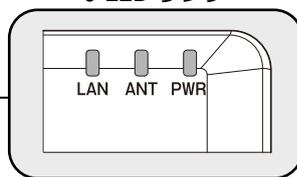
[LTE信号強度^{※1}]

- 緑点灯 : LTE信号強度「良好」
- 緑点滅(遅い)^{※2} : LTE信号強度「弱」
- 橙点灯 : 3G信号強度「良好」
- 橙点滅(遅い)^{※2} : 3G信号強度「弱」
- 消灯 : 圏外

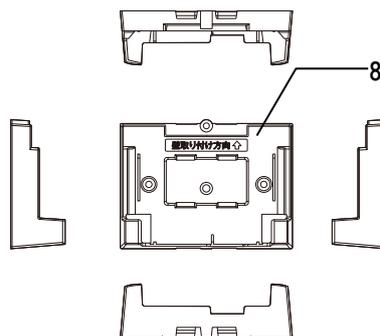
[その他ANT表示状態]

- 緑点滅(速い)^{※2} : LTE接続処理中、または電源ONからシステム起動完了まで
- 橙点滅(速い)^{※2} : 3G接続処理中
- 赤点灯 : SIM認識エラー

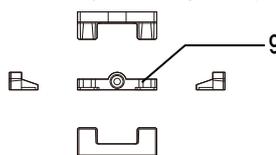
3 LED ランプ



◆取り付け用ホルダー



◆ホルダー用セキュリティストッパー



3 LEDランプ(つづき)

● PWR

- 消灯 : 電源OFF
- 緑点灯 : 電源ON
- 橙点灯(速い)^{※2} : ファームウェア更新中
- 赤点灯 : 高温で起動できないとき

4 ANT1・ANT2

外部アンテナ接続端子です。(使用しません)

5 USBポート

USB給電するためのACアダプタ接続ポートです。

6 LANポート

LANに接続するためのポートです。

7 SIMカバー

本体カバーです。(使用しません)

8 取り付け用ホルダー

LTEルータを壁面に取り付けるためのホルダーです。

9 ホルダー用セキュリティストッパー

LTEルータを取り付け用ホルダーにセットしたときの移動防止用ストッパーです。

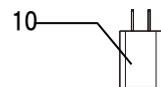
10 ACアダプタ

LTEルータのACアダプタです。

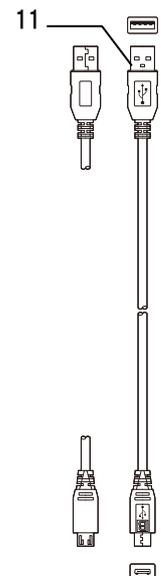
11 ACアダプタ用USBケーブル

LTEルータに電源供給するためのUSBケーブルです。

◆ACアダプタ



◆ACアダプタ用USBケーブル

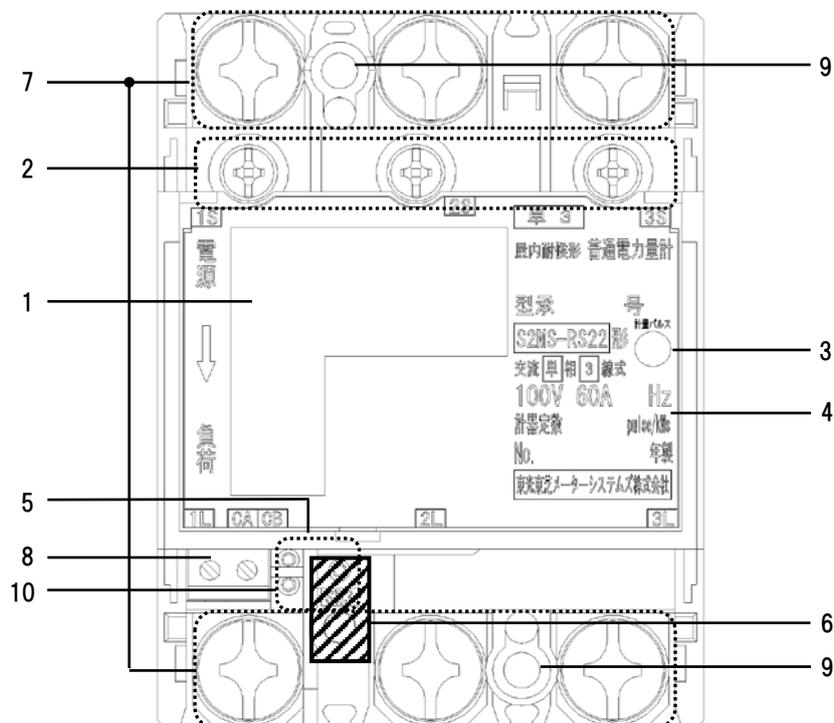


※1 : LTE 信号強度「良好」以外は、安定した通信を行えない場合があります。

※2 : 点滅の周期 : 「速い」 = 点灯 1 秒・消灯 1 秒、「遅い」 = 点灯 2 秒・消灯 1 秒

本製品について(つづき)

■ スマートメータ



1 表示部

電力量、負荷の状態（負荷電流の向き、計量状態）、発信パルス定数を表示します。

2 試験用短絡ねじ

通常は操作することはありません。
開放状態では計量できません。

3 計量パルス

赤外線のパルスを出力します。
（検定時に使用します。）

4 定格銘板

計量の種別、形名および定格などを示します。

5 設定スイッチ

表示方向、発信パルス定数、発信パルスの幅が設定できます。

6 封印キャップ

検定品につけられています。外さないでください。

7 電源・負荷接続端子

電源・負荷線を接続します。
（締付けトルク：5 ～ 7N・m）

8 パルス端子

正方向計量分の発信パルスを出力します。
（締付けトルク：0.3 ～ 0.4N・m）

9 取付けねじ穴

計器本体を取付板に直接取付ける場合のねじ穴です。

10 送りスイッチ、選択スイッチ

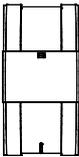
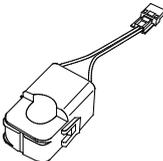
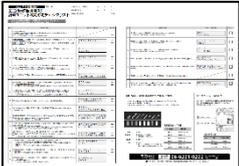
スマートメータの設定を行うためのスイッチです。

施工手順

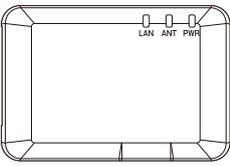
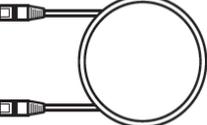
部材・機器の準備

● 同梱品の確認

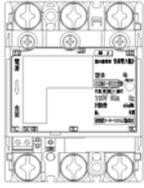
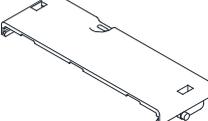
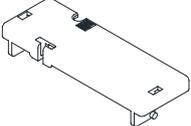
施工の前にすべてそろっていることを確認してください。

名称	形状	説明	数量
計測ユニット (EIG センサ)		計測ユニット本体	1 台
主幹用電流センサ (主幹計測 CT)		主幹電流を計測する為の CT	2 個
壁取付け用木ネジ		計測ユニットを壁に設置する際に使用する木ネジ	4 本 (2018 年度以降出荷分より 3 本)
配線用圧着端子		計測ユニット用電圧検知用ケーブル作成に使用する圧着端子	4 個 (2018 年度以降出荷分より 3 個)
絶縁キャップ		計測ユニット用電圧検知用ケーブル作成に使用する絶縁キャップ	3 個
結束バンド		計測ユニットを露出配線する場合に、ケーブルの結束に使用するバンド	2 本
初期設定 簡易マニュアル		施工時に初期設定手順を確認する為のチェックシート	A3 両面 1 枚
施工結果 記入シート		設定結果を書き留めておく為のシート	A4 片面 1 枚

部材・機器の準備 (つづき)

名称	形状	説明	数量
LTE ルータ		LTE ルータ本体	1 台
AC アダプタ		LTE ルータ用 AC アダプタ	1 本
AC アダプタ用 USB ケーブル (1m)		LTE ルータと AC アダプタを接続する USB ケーブル	1 個
取り付け用ホルダー		LTE ルータ本体を壁面にとりつける専用ホルダー	1 個
壁掛け用ネジ		取り付け用ホルダー用のネジ ネジ径：M3 ネジ長さ：16mm	2 個
ホルダー用セキュリティストッパー		LTE ルータ本体を取り付け用ホルダーにセットしたときの移動防止用ストッパー	1 個
ストッパー用ネジ		セキュリティストッパー用ネジ ネジ径：M3 ネジ長さ：10mm 締め付けトルク：0.62N・m ネジ種類：ヘクスローブ T10	1 個
LAN ケーブル (0.5m)		LTE ルータと計測ユニットを接続する LAN ケーブル	1 本

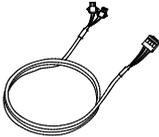
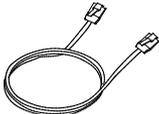
● 別梱品の確認

名称	形状	説明	数量
スマートメータ		スマートメータ本体	1 台
S 側端子カバー		スマートメータの電源側端子カバー	1 個
L 側端子カバー		スマートメータの負荷側端子カバー	1 個

部材・機器の準備 (つづき)

● 別売品の準備

設置環境やシステム構成に合わせて、下記の別売り品を準備してください。

名称	形状	説明	備考
主幹電流センサケーブル (3m、5m、15m、30m)		計測ユニットと主幹用電流センサを接続するケーブル	設置環境にあわせて、必ず 1 本ご選定・ご購入頂く必要があります。
パワコン・計測ユニット間通信ケーブル (5m、15m、30m)		計測ユニット-パワーコンディショナ間の RS485 通信用ケーブル	設置環境にあわせて、必ず 1 本ご選定・ご購入頂く必要があります。
PCS 間通信ケーブル (5m、15m、30m、50m)		パワーコンディショナ間の RS485 通信用ケーブル	パワーコンディショナを複数台設置する場合には、各パワーコンディショナ間の接続用にご選定・ご購入ください。

部材・機器の準備 (つづき)

● 工事店様で準備する部材・機器

設置・配線

■ 計測ユニット用ブレーカ

- 1Φ3W AC100/200V、定格20A

■ 電圧検知用ケーブル作成用部材

- VVF Φ2mm × 3芯 (銅単線)
- 圧着端子[1式] (分電盤の計測ユニット用ブレーカへの配線用)
選定された計測ユニット用ブレーカに応じた圧着端子をご準備ください。
- 絶縁キャップ[1式] (分電盤の計測ユニット用ブレーカへの配線用)

■ 工具・測定器具

- ドライバ
- トルクドライバ (締め付けトルク : 0.3 ~ 7.0N・m)
- ヘクスローブT10用トルクドライバビット (LTEルータを壁掛けで使用する場合に必要となります)
- セラミックドライバ (Φ1.8以下で長さ10mm以上のもの)
- 裸圧着端子用圧着工具 (JIS適合品)
- ニッパー
- ペンチ

■ その他

- CPEVS-Φ0.9-1P相当 (パルスケーブル)
- 穴埋め用パテ (計測ユニットの配線口用)
- ボードアンカーなどの壁面補強材
(計測ユニットを薄い木材や木材ではない材質の壁に取り付ける場合に必要となります)

初期設定

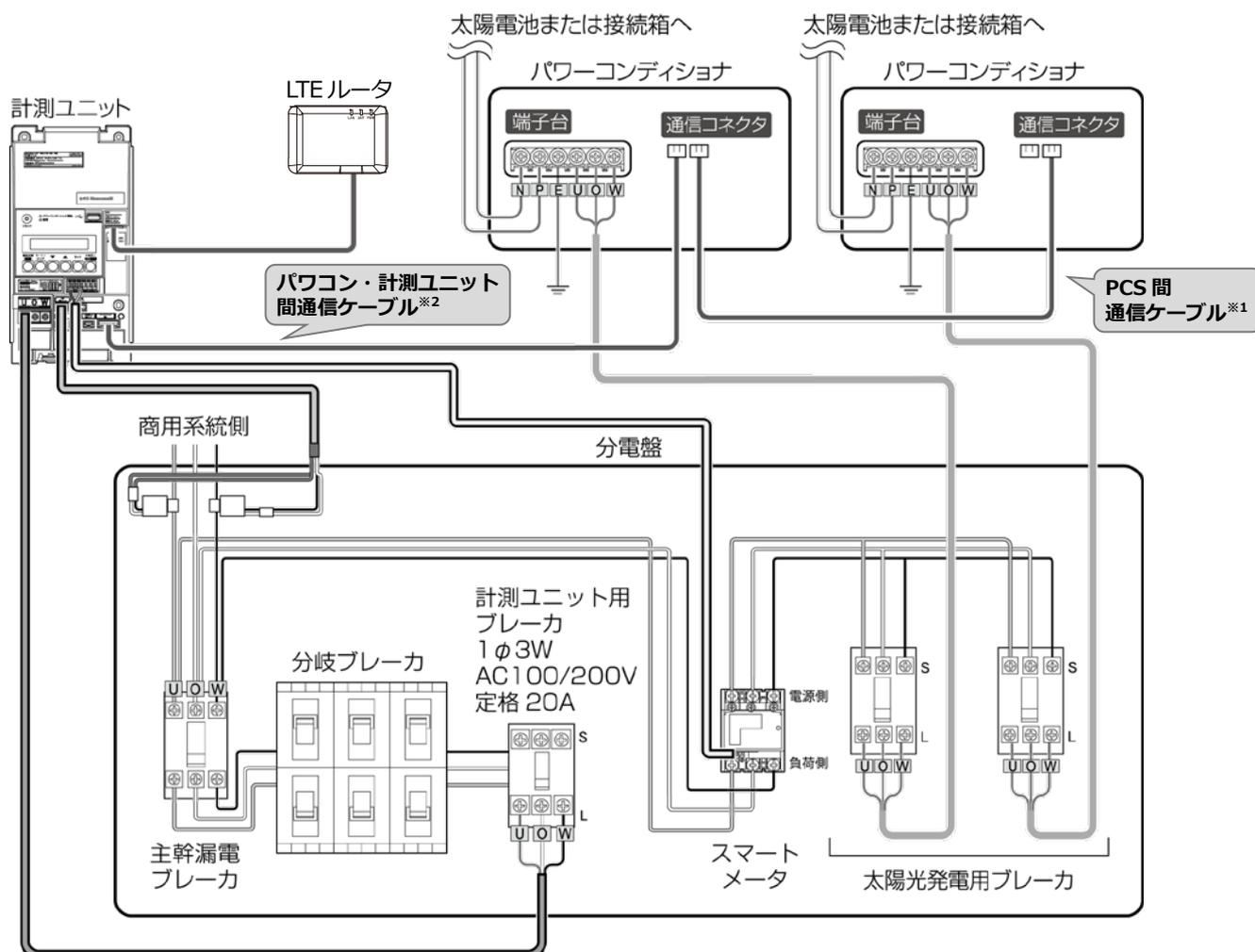
- 主幹用電流センサの設置方向確認の為の電化製品
- 消費電力150W以上の電化製品(例：ドライヤー) × 2台 (U相、W相確認用)

上記以外に必要な部材・機器がある場合は、工事店様でご準備ください。

システムの配線について

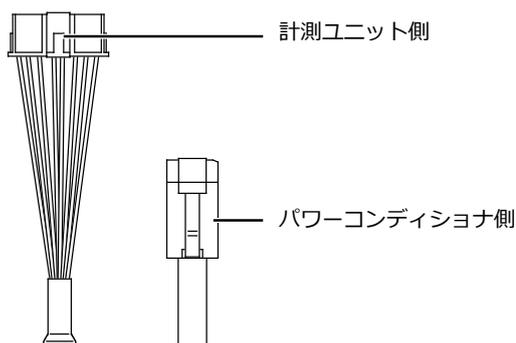
- パワーコンディショナは最大 **6台**まで接続できます。
- パワーコンディショナと太陽電池間の配線はパワーコンディショナの形式によって異なります。パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

パワーコンディショナを2台接続し、スマートメータを設置する場合のシステムの配線図を示します。
(機器のイラストはイメージ図です)



※1：パワーコンディショナ間の配線について、詳しくは P.28～P.33、およびパワーコンディショナの施工マニュアルをお読みください。

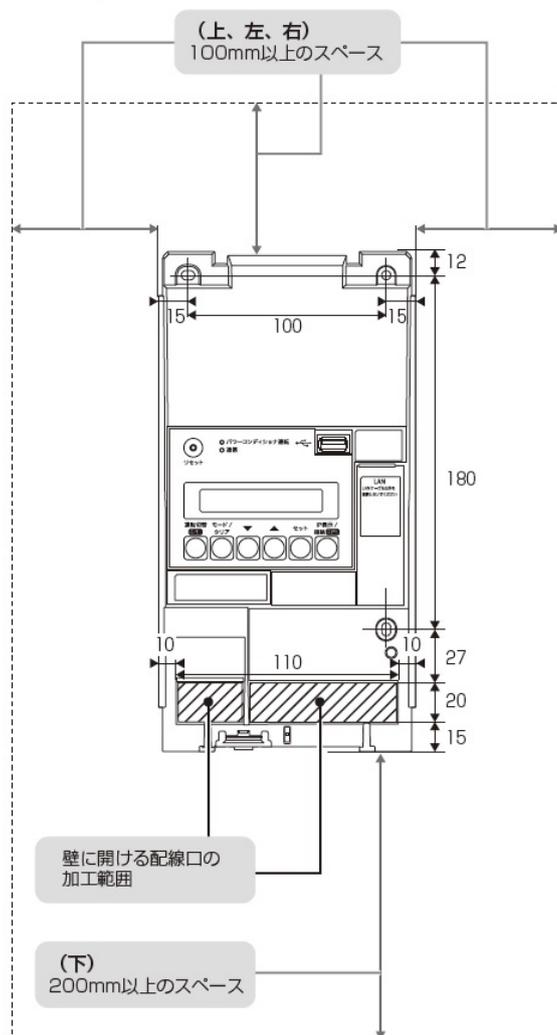
※2：パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、パワーコンディショナ側と計測ユニット側で端子の形状が異なります。ケーブルの向きに注意して配線してください。



計測ユニットの設置

1 計測ユニットの設置場所を確認する

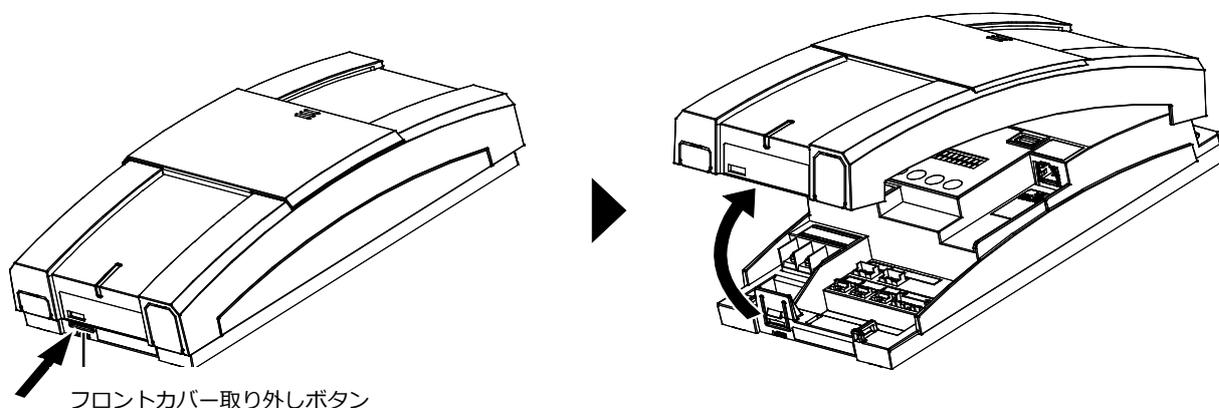
取り付け寸法図（単位：mm）



- 計測ユニットの設置場所で、以下の条件が満たせるかご確認ください。
- 計測ユニットの下面には障害物等を置かないように取り付けてください。周囲に障害物等があると、カバーの取付・取外しができなくなります。
- 垂直な壁に取り付けてください。
- 横にしたり、傾けたりして取り付けないでください。
- 薄い木材や木材ではない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、市販のボードアンカーを使って、壁面にしっかりと固定してください。

計測ユニットの設置 (つづき)

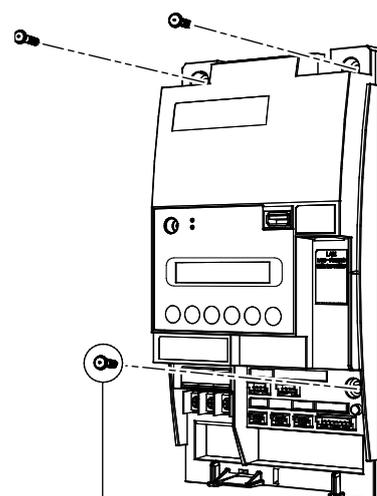
- 2** 計測ユニットのフロントカバー取り外しボタンをマイナスドライバーなどの先の細い工具で押しながら、フロントカバーを取り外す



フロントカバー取り外しボタン

- 3** 図のように計測ユニットを同梱の壁取り付け用木ねじ (Φ4.1 × 25)(3本)で壁に固定する

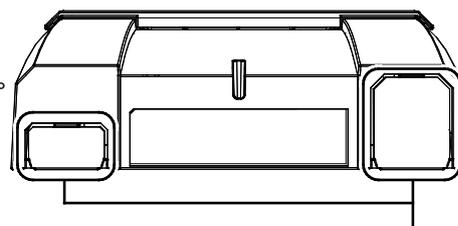
- 3か所をねじ止めしてください。
- フロントカバーは計測ユニットの設置・配線が終わるまで外したままにしておいてください。



壁取り付け用木ねじ
(Φ4.1×25) (同梱)

- 4** 露出配線の場合のみ:
フロントカバー底面にノックアウトホールを開ける

- ニッパーとペンチを使ってノックアウトホールを開けてください。

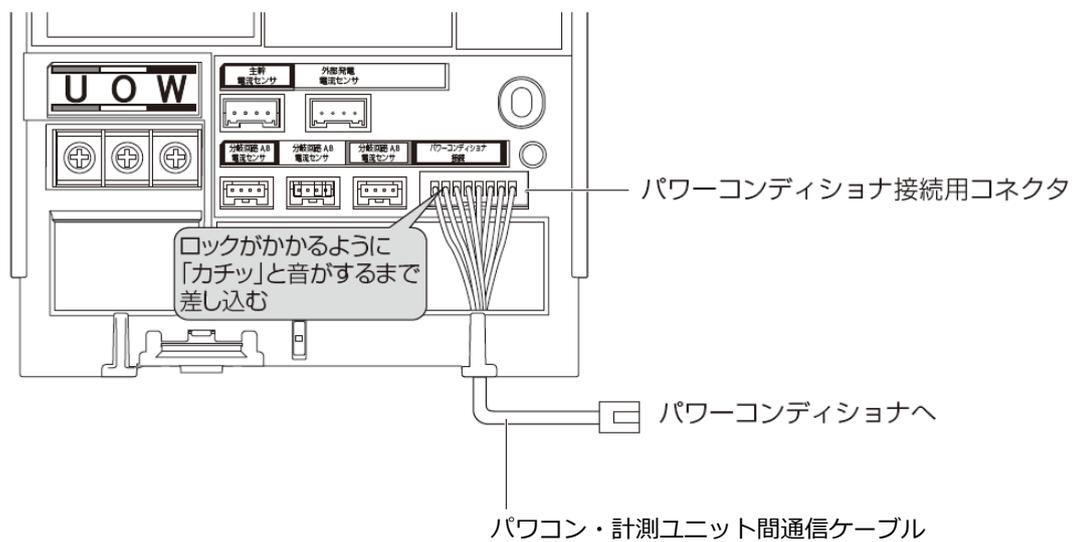


ノックアウトホール

計測ユニットの設置 (つづき)

5 計測ユニットにパワコン・計測ユニット間通信ケーブルをつなぐ

- パワーコンディショナ接続用コネクタに接続してください。



パワーコンディショナの配線・設定

パワーコンディショナの形式によって、設定方法や通信ケーブルの配線方法が異なりますので、パワーコンディショナの形式を確認してから設定・配線してください。
 パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

● パワーコンディショナのユニット No.設定

パワーコンディショナを接続する場合は、パワーコンディショナにてユニット No.の設定が必要になります。
 (パワーコンディショナが 1 台の場合はユニット No.の設定は必要ありません)
 パワーコンディショナ設定スイッチ (MOD キー、ENT キー、ESC キー) を操作して、設定項目の「Unit」
 (通信ユニット No.) を変更してください。

接続台数	ユニットNo.	ユニットNo.の設定
パワーコンディショナ 1 台目	1	変更する必要があります。(「0」→「1」)
パワーコンディショナ 2 台目	2	変更する必要があります。(「0」→「2」)
パワーコンディショナ 3 台目	3	変更する必要があります。(「0」→「3」)

- 計測ユニットとの接続に近い順に、「パワーコンディショナ1台目」、「パワーコンディショナ2台目」、「パワーコンディショナ3台目」と表現しています。
- パワーコンディショナの工場出荷時は、ユニットNo.は「0」に設定されています。
必ず1台目のユニットNo.は「1」に設定を変更してください。
- パワーコンディショナ4台目以降は、「4」、「5」、「6」の順でユニットNo.を設定してください。

- ユニットNo.が正しく設定されていないと、発電量を算出できません。
必ず上記の表のように設定してください。ユニットNo.の設定方法については、パワーコンディショナの施工マニュアルをお読みください。
- 設定後、施工結果記入シートにユニットNo.、パワコンNo.、型式、製造番号を記入してください。

■ [施工結果記入シート 記入例]

・ パワーコンディショナ情報

設置台数	3		台										
ユニット No. (通信 ID) [パワコンに設定した番号]	1	2	3										
パワコン No. [計測ユニットが割り当てた番号]	1	2	3										
型式	KP48R-J3	KP48R-J3	KP48R-J3										
製造番号	000000000	111111111	222222222										
終端抵抗 の設定	KP□K / KP□K2												
	KPK-A□ / KPR-A□ / KPW-A□	ON / OFF											
	KP□M / KP□M2 KP□R	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF	終端抵抗 1: ON / OFF 終端抵抗 2: ON / OFF

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

● パワーコンディショナの終端抵抗設定

パワーコンディショナを複数台接続する場合は、終端抵抗の設定が必要になります。
 (パワーコンディショナが1台の場合は終端抵抗の設定は必要ありません)
 パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

KP□K / KP□K2、KPK-A□、KPR-A□、KPW-A□ シリーズを使用する場合の設定

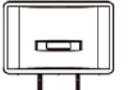
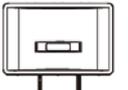
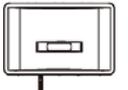
工場出荷時は、終端抵抗は「ON」に設定されています。

計測ユニット	パワーコンディショナ		
	計測ユニットと接続	中間	計測ユニットから最遠
			
	終端抵抗	終端抵抗	終端抵抗
	OFF	OFF	ON

- 計測ユニットと接続されているパワーコンディショナおよび中間のパワーコンディショナの終端抵抗を「OFF」にしてください。

KP□M / KP□M2、KP□R シリーズを使用する場合の設定

工場出荷時は、終端抵抗1/終端抵抗2ともに「ON」に設定されています。

計測ユニット	パワーコンディショナ					
	計測ユニットと接続※1		中間※2		計測ユニットから最遠※3	
						
	終端抵抗1	終端抵抗2	終端抵抗1	終端抵抗2	終端抵抗1	終端抵抗2
	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON

※1: 「計測ユニットと接続」のパワーコンディショナの終端抵抗1を「OFF」にしてください。

※2: パワーコンディショナを3台以上接続する場合に必要な設定です。

「計測ユニットと接続」のパワーコンディショナと「計測ユニットから最遠」のパワーコンディショナ以外は、終端抵抗を「OFF」にしてください。

※3: 「計測ユニットから最遠」のパワーコンディショナの終端抵抗は「ON」のままにしてください

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

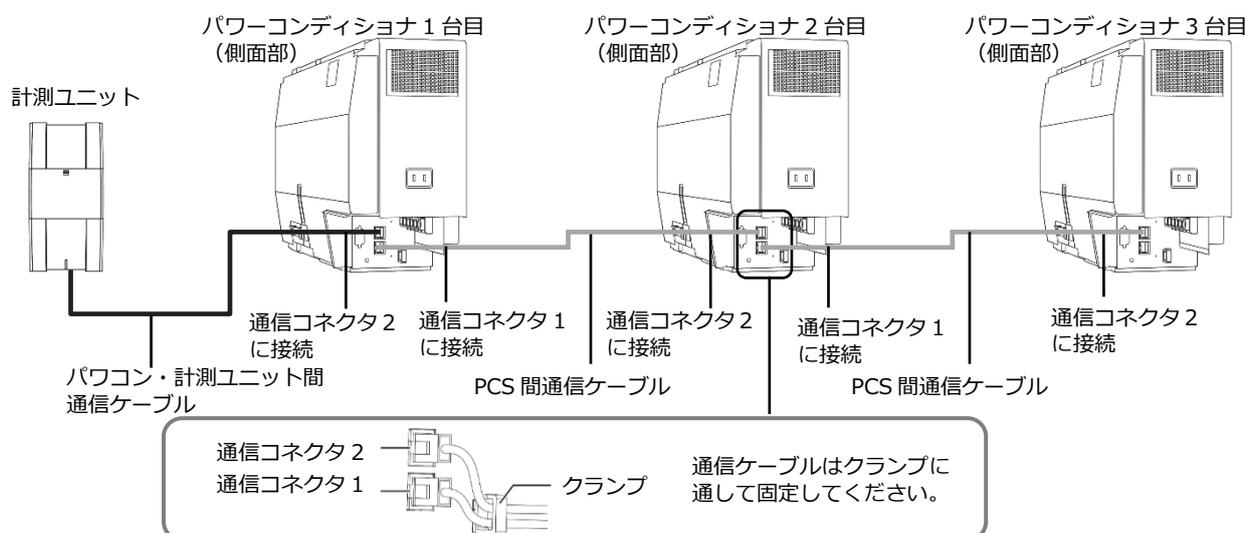
● パワーコンディショナと計測ユニットの配線

- パワーコンディショナを複数台設置する場合は、システムの総発電量を計測するために、パワーコンディショナ間にPCS間通信ケーブルをつないでください。

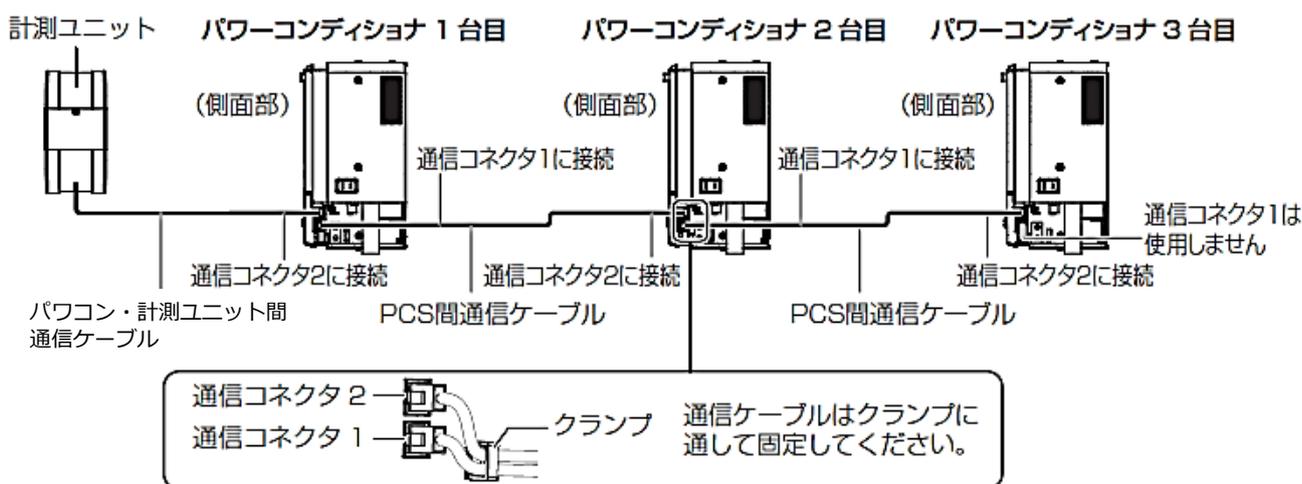
KP□K / KP□K2、KPK-A□ シリーズへの配線

1 計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ 2 に差し込む

■ KP□K、KP□K2、KP□K2-P



■ KPK-A□

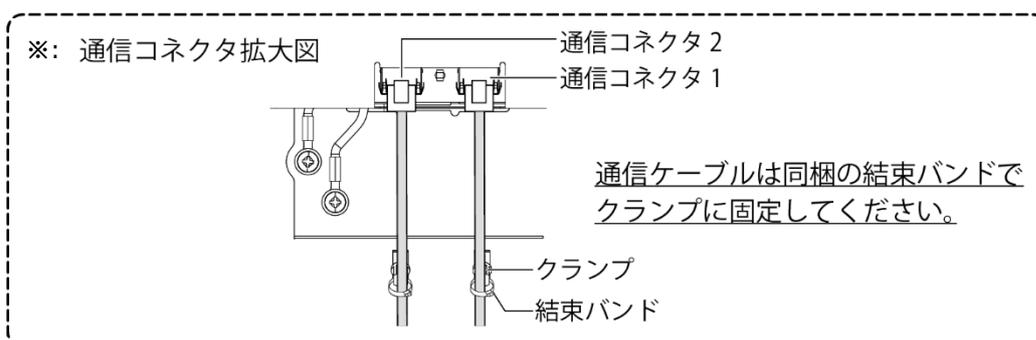
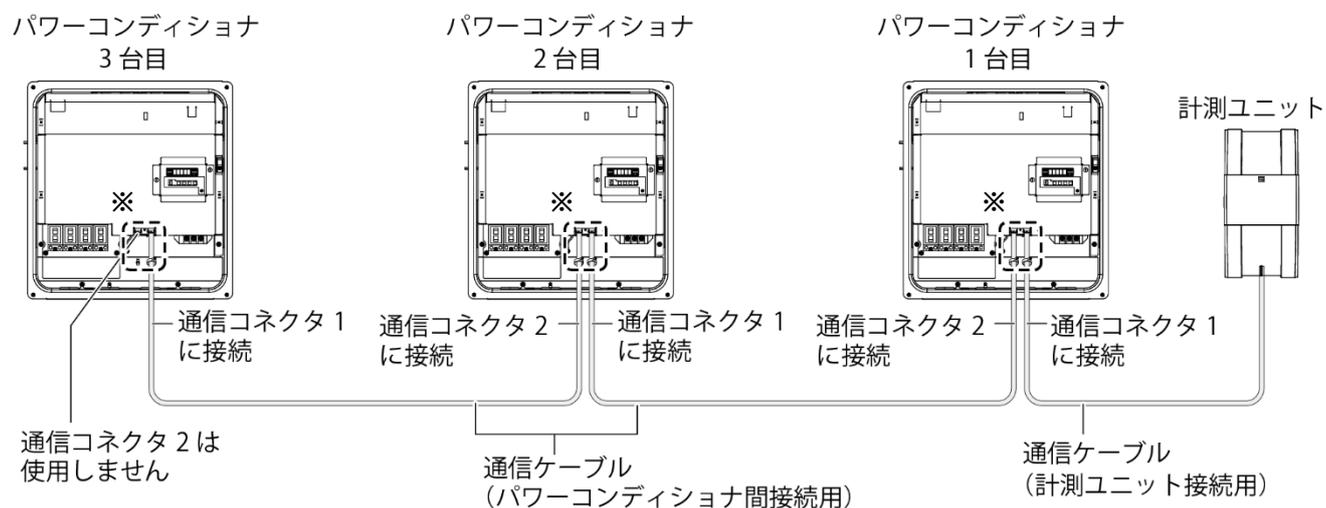


- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、環境にあわせて必ず1本ご選定・ご購入ください。別売の通信ケーブルについてはP.22をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」、「パワーコンディショナ 2 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

KPR-A□、KPW-A□ シリーズへの配線

1 計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ 1 に差し込む



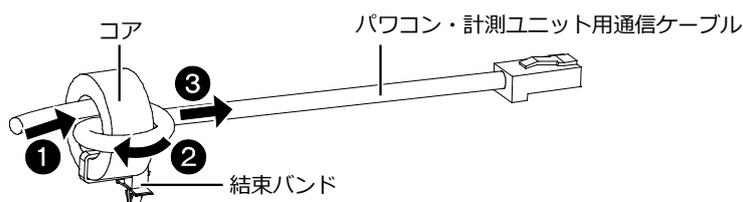
- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、環境にあわせて必ず1本ご選定・ご購入ください。別売の通信ケーブルについてはP.22をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1台目」、「パワーコンディショナ 2台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

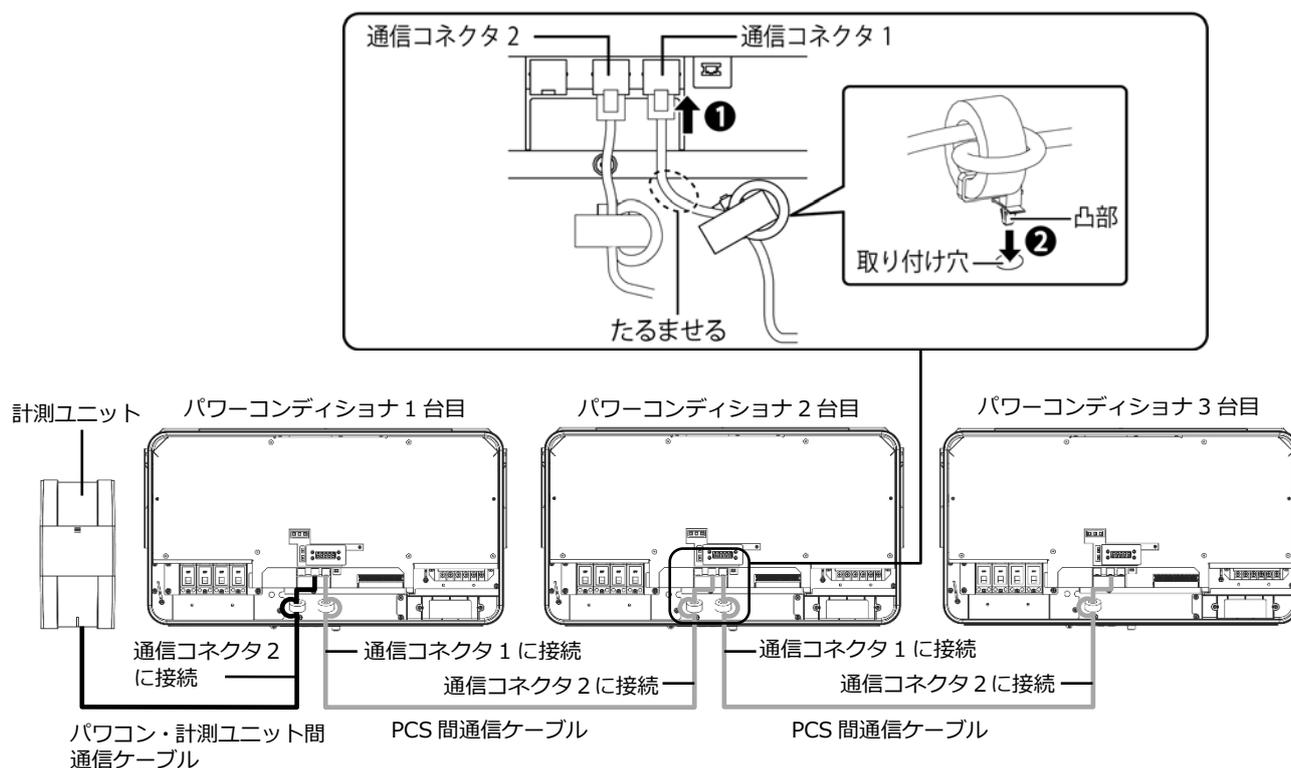
KP□M / KP□M2 シリーズ への配線

1 計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナに同梱のコアに巻きつける

- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、結束バンド台座の反対側から通してください。



2 パワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ 2 に差し込み、結束バンド台座の凸部を取り付け穴に押し込む

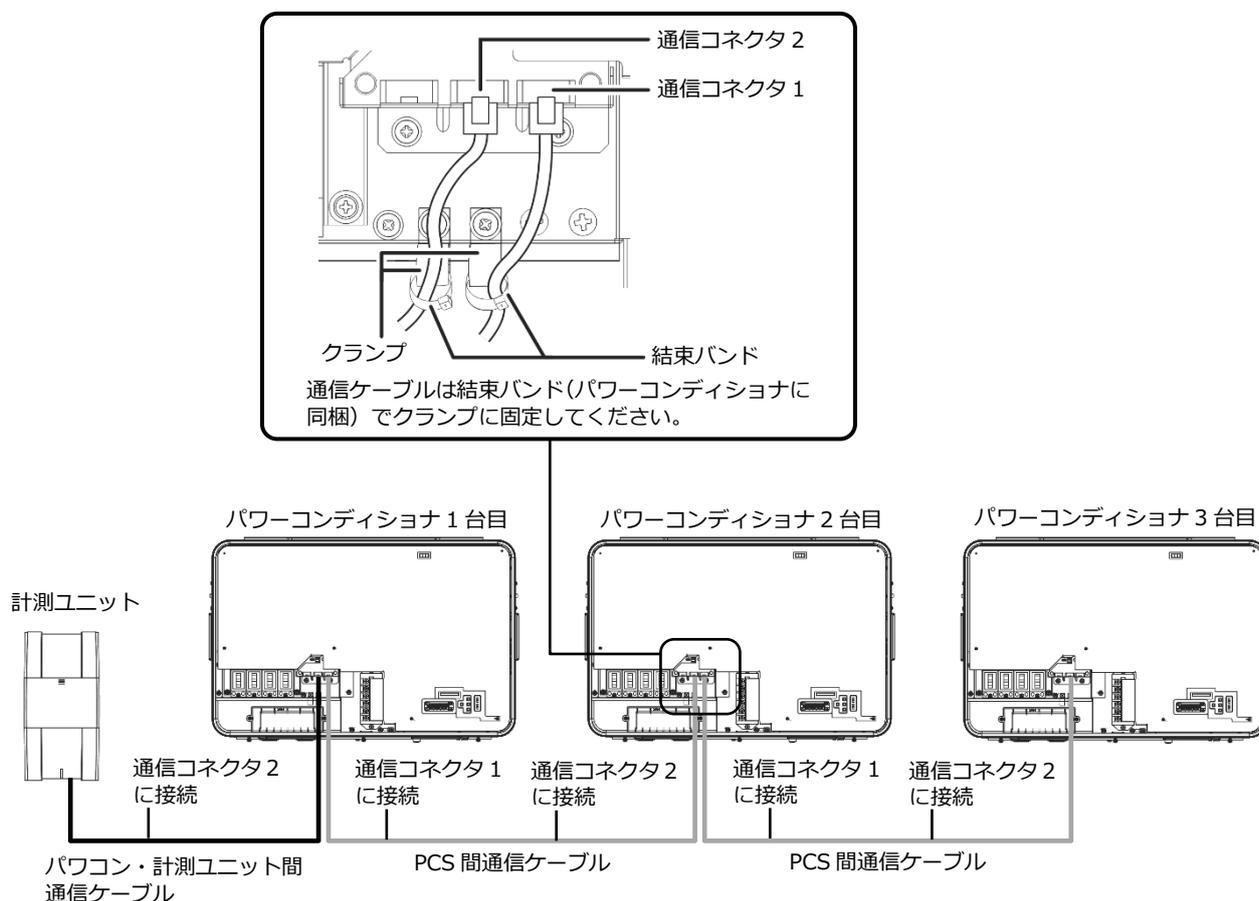


- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、設置環境にあわせて必ず1本ご選定、ご購入ください。別売の通信ケーブルについてはP.22をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」、「パワーコンディショナ 2 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

KP□R シリーズへの配線

1 計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ 2 に差し込む



- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、設置環境にあわせて必ず1本ご選定、ご購入ください。別売の通信ケーブルについてはP.22をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」、「パワーコンディショナ 2 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

主幹用電流センサの設置

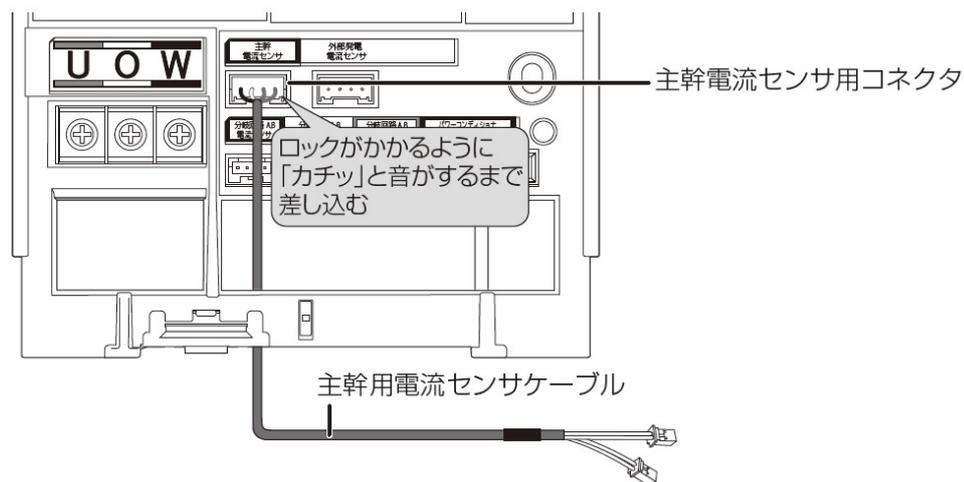
主幹用電流センサを取り付ける際には、以下の項目に注意してください。

- 主幹用電流センサの向き、設置場所を誤ると正確な計測ができません。
- 主幹用電流センサは、落としたり衝撃を加えたりすると正確な計測ができなくなります。

1 計測ユニットに主幹用電流センサケーブルをつなぐ

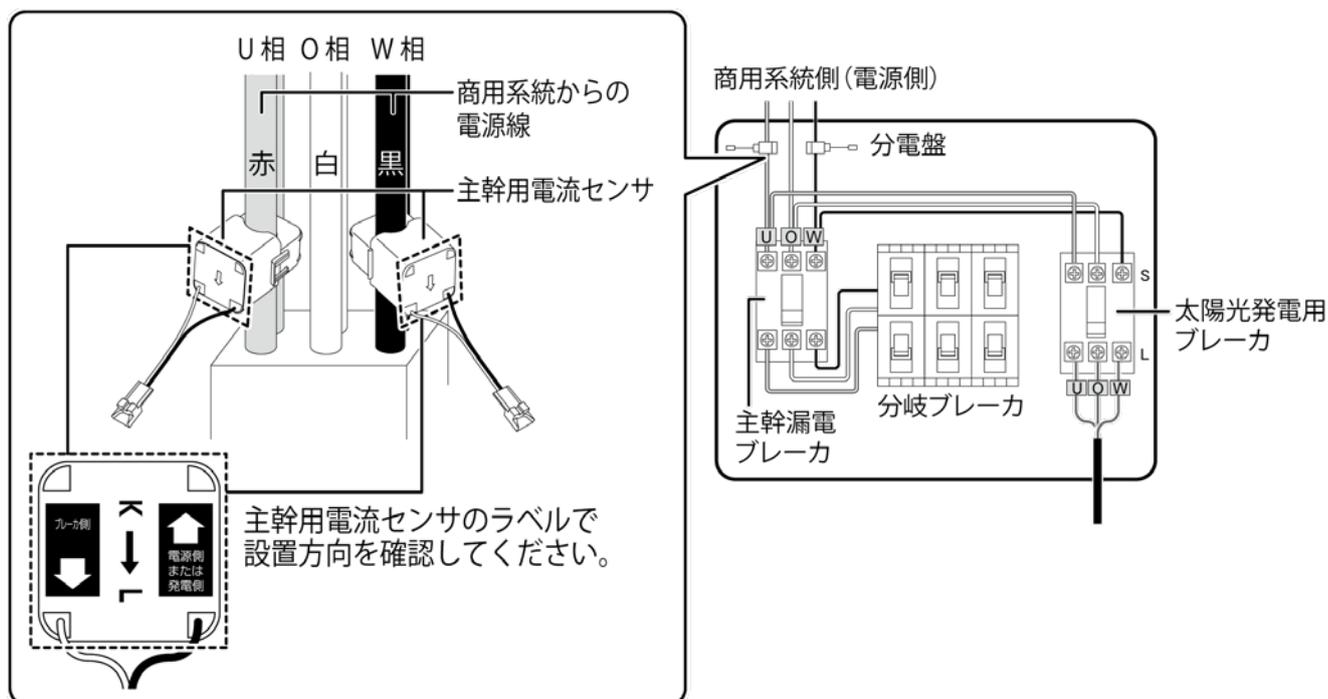
※設置環境にあわせて、必ず1本ご選定、ご購入ください。(P.22)

- 主幹用電流センサケーブル接続コネクタに接続してください。



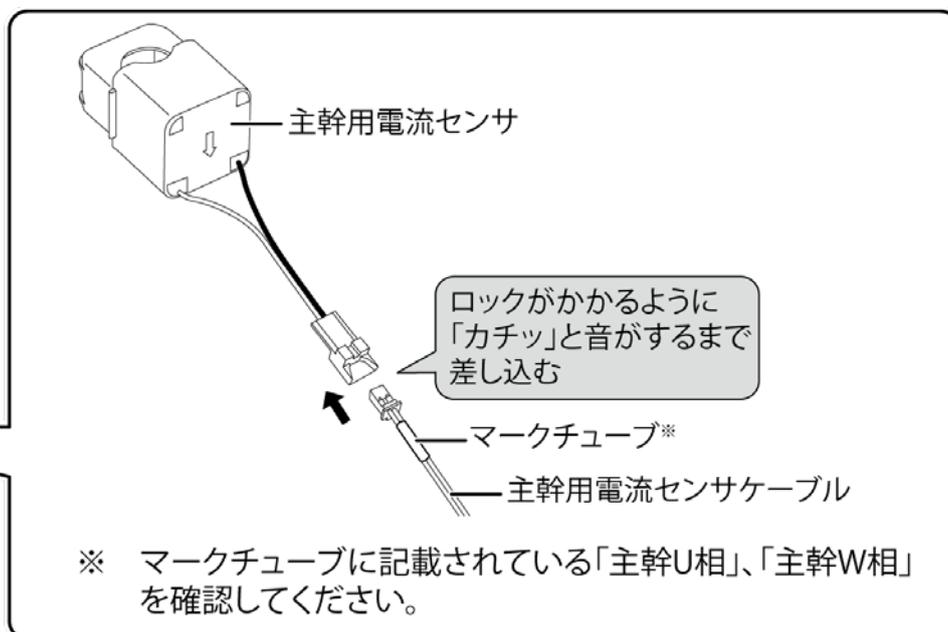
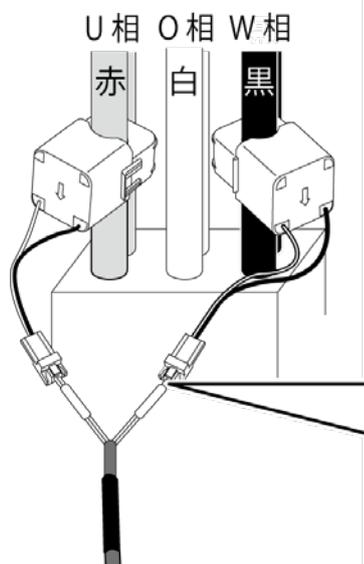
2 主幹漏電ブレーカの1次側に主幹用電流センサを取り付ける

- 太陽光発電用ブレーカより系統側に設置してください。
- ロックがかかるように取り付けてください。(「カチッ」と音がします)



主幹用電流センサの設置 (つづき)

3 主幹用電流センサに主幹用電流センサケーブルをつなぐ



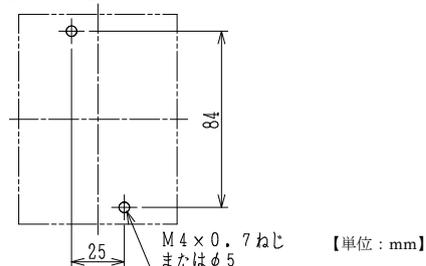
スマートメータの配線・設定

1 スマートメータを設置する

■ 取り付け方法

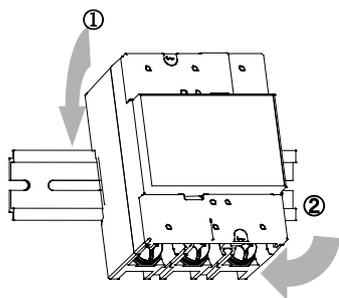
以下の(1)もしくは(2)のいずれかの方法でスマートメータを設置してください。

- (1) ねじ止めによる取り付け
 ねじ止めにより取り付けられます。
 取り付け穴寸法は右記の通りです
 ※2点鎖線はスマートメータの大きさを示しています。



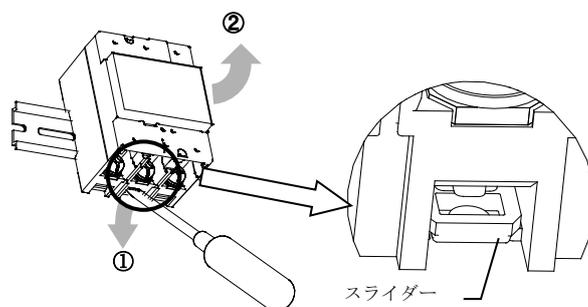
- (2) IEC35 mmレールへの取り付け・取り外し
 <取り付け>

- ① 計器をレールの上端にかけます。
- ② 計器を押し付けて固定します。



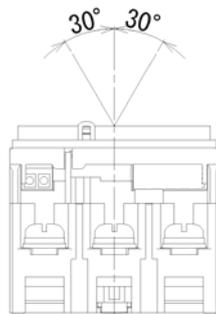
<取り外し>

- ① マイナスドライバー等で背面のスライダを押し下げます。
- ② 計器を手前に引き上げて取り外します。



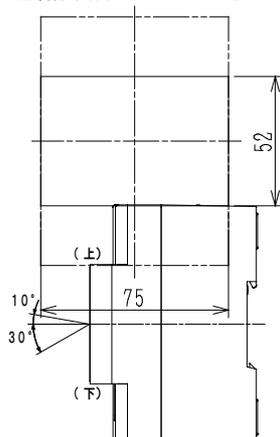
■ 取り付け位置

表示部(液晶表示)は見る角度(視野角)によりコントラストが変化します。
 設置後に表示部が確認しやすいよう、取り付け位置(角度)にご注意ください。
 最適な角度は以下の通りです。



● 表板穴寸法

表板の穴寸法は以下の通りです。※2点鎖線はスマートメータの大きさを示しています。



スマートメータの配線・設定 (つづき)

2 スマートメータに配線をつなぐ

■ スマートメータの端子ねじ

スマートメータの電源・負荷接続端子、パルス端子のねじ位置を示します。



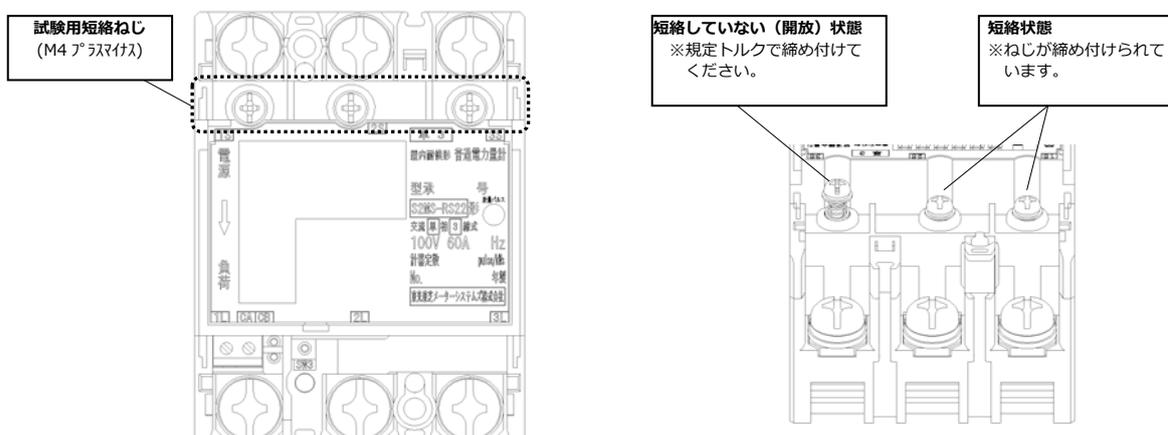
■ 接続方法

適合圧着端子は下表のとおりです。安全上、丸型の圧着端子をご使用ください。
スマートメータの取り付け・取り外し作業は、技能を有する人が行ってください。
また、絶対に通電中は作業しないでください。

規定トルクを守らなかった場合、ねじ等の破損や異常発熱等が発生する恐れがあります。

	ねじ仕様	接続方法	締付トルク
電源・負荷接続端子 1S,2S,3S,1L,2L,3L	M8 (プラスメタ)	M8 ねじ用 丸型圧着端子を 使用してください。 	5N・m ~ 7N・m
試験用短絡ねじ (通常操作することは ありません。)	M4 (プラスメタ)	下図の通り短絡状態であることを確認してください。短絡状態で無い場合、規定の締付トルクで締め付けてください。短絡状態で無い場合は、正しく計量できず、端子カバーが取り付けられません。	0.2N・m ~ 0.3N・m
パルス端子 CA, CB	M2.6 (メタ)	電線を端子に挿入して、ねじ締めにより押さえ込んで接続してください。 推奨ケーブル：CPEVS-Φ0.9-1P 相当 被服は 5~6 mm 剥いて端子に挿入してください。	0.3N・m ~ 0.4N・m

● 試験用短絡ねじの位置と状態

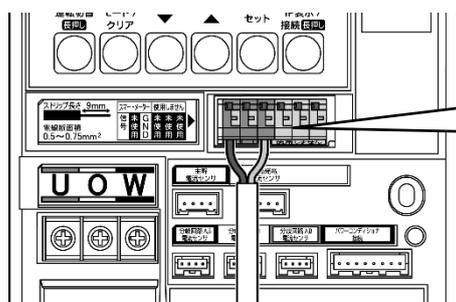


スマートメータの配線・設定 (つづき)

■ パルス端子の配線

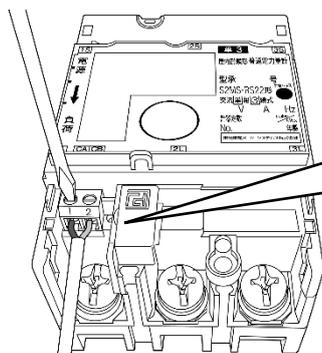
パルスケーブル(CPEVS-Φ0.9-1P 相当、長さ 50m 以下)を計測ユニット、スマートメータに配線します。スマートメータの CA 端子を、計測ユニットの信号端子(パルス端子の左から 1 番目)に接続してください。同様にスマートメータの CB 端子を、計測ユニットの GND 端子(パルス端子の左から 3 番目)に接続してください。

● 計測ユニット側



パルスケーブルを 9 mm でストリップ加工し、パルス端子の押しボタンを押しながら配線を挿入し、ボタンを離してください。

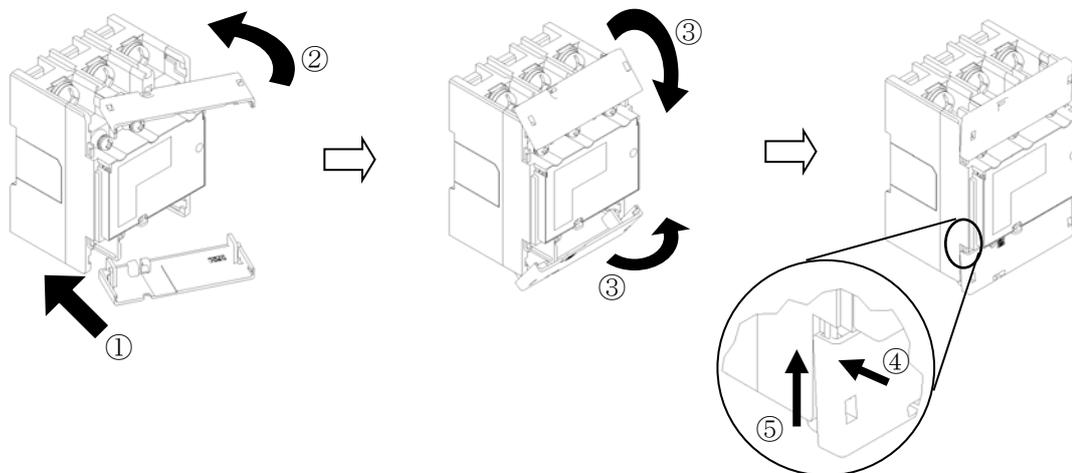
● スマートメータ側



一旦 M2.6 マイナスドライバで、ねじを緩めてから、パルスケーブルを 5~6mm でストリップ加工し、パルス端子に差し込んでください。その後、配線をねじ止めしてください。(締付けトルク : 0.3~0.4N・m)

■ 端子カバー取り付け

端子カバーを下図のようにスライドさせた後、押して取付けてください。また、端子カバーを取り外す場合は、逆の手順で外してください。定格電流 120A 品で絶縁バリアを用いる場合は、端子カバーを外した状態で絶縁バリアを取付けてください。



- ① 端子カバーの片側凸部をカバーの溝に入れます。
- ② 端子カバーを回転させ、反対側の凸部をカバーの溝に入れます。

- ③ 端子カバーを内側に回転させます。

- ④ 端子カバー両端先端を強く押しします。
- ⑤ 内側へスライドさせます。

スマートメータの配線・設定 (つづき)

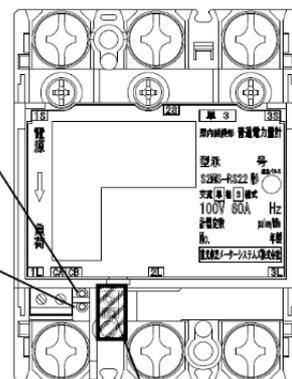
3 スマートメータの設定をおこなう

スマートメータを以下のように設定する。

【注意】設定スイッチを押下する際は、鋭利でなく、Φ1.8 以下で長さ 10mm 以上のセラミックドライバ等の工具を使用してください。

送りスイッチ (SW1)
※端子カバー取付状態でも操作ができ、確認できます。

選択スイッチ (SW2)
※端子カバー取付状態では操作ができず、確認できません。



検定品は封印キャップが
つきます

■ スマートメータ設定値

No.	項目	初期設定	使用時の設定
1	表示方向	上方向	上方向 (変更なし)
2	パルス定数	1	10
3	パルス幅	120	120 (変更なし)

■ 画面表示例 (計量値画面)



① 計量値画面が表示されている状態で、セラミックドライバを使って送りスイッチ (SW1) を 2 回押下する

表示項目	表示内容
計量値	123456 kWh パルス定数 1 pulse/kWh
表示方向 (上方向の表示状態)	123456
パルス定数	1 パルス定数 1 pulse/kWh

送りスイッチ(SW1)1 回押下

送りスイッチ(SW1)1 回押下

スマートメータの配線・設定 (つづき)

- ② パルス定数“1”が表示されている状態で、選択スイッチ (SW2) を 3 回押下してパルス定数“10”を選択する

表示項目	表示内容
パルス定数 (初期値 = “1”)	1 <small>パルス定数 1 pulse/kWh</small>
パルス定数 (“10”を選択)	10 <small>パルス定数 10 pulse/kWh</small>

選択スイッチ(SW2) 3回 押下

- パルス定数は必ず“10”に設定して下さい。
“10”に設定されていない場合、太陽光発電の発電量を正しく計量することができません

- ③ 送りスイッチ (SW1) を 6 回押下して計量値画面へ戻る

表示項目	表示内容
パルス定数 設定・確認	10 <small>パルス定数 10 pulse/kWh</small>
パルス幅	120 <small>パルス幅</small>
瞬時電圧値：1 側	110
瞬時電圧値：3 側	311
瞬時電流値：1 側	1A
瞬時電流値：3 側	3A
計量値 ※停電中は表示が消灯となります。 再度送りスイッチ(SW1)を1回押下 すると計測値画面が表示されます	123456 kWh <small>パルス定数 10 pulse/kWh</small>

送りスイッチ(SW1)押下

送りスイッチ(SW1)押下

送りスイッチ(SW1)押下

送りスイッチ(SW1)押下

送りスイッチ(SW1)押下

送りスイッチ(SW1)押下

送りスイッチ(SW1)押下

6回

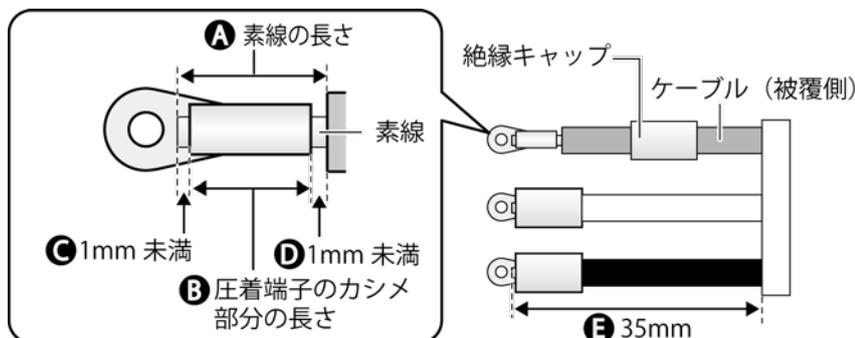
- 設定・確認を完了した場合、または設定・確認中に1分間スイッチ操作を行わなかった場合に、設定・確認が終了します。終了後は、通電中は計量値画面表示に戻り、停電中は表示を消灯します。
- 設定した値は設定・確認が完了した時に保存されます。
設定途中で終了した場合は、設定が有効になりませんので、設定・確認完了まで操作を行ってください。
- 設定・確認中に通電→停電、または停電→通電と変化した場合は、設定内容を破棄して、停電または通電処理を行います。再度操作をやり直してください。

電圧検知用ケーブルの配線

準備

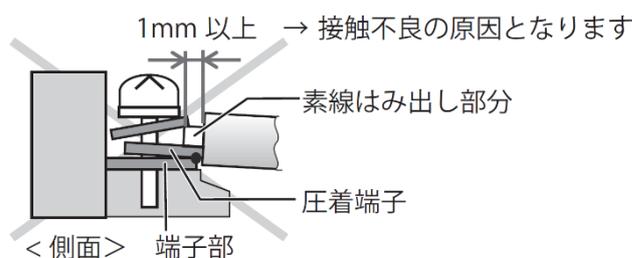
下記ケーブルを工事店様でご用意のうえ、同梱の圧着端子を使って電圧検知用ケーブルを作成してください。
VVF Φ2mm × 3 芯（銅単線）

■ 圧着端子（同梱）とケーブルの加工



- ケーブルのストリップ加工は、以下の寸法になるように行ってください。
 - 素線の長さ (A) :
圧着端子のカシメ部分の長さ (B) + 2mm 未満 (C+D)
 - 素線はみ出し部分 :
配線端子側 (C) : 1mm 未満※
ケーブル被覆側 (D) : 1mm 未満
 - ケーブルの長さ (E) : 35mm
- 絶縁キャップはあらかじめ圧着する前にケーブルに通しておき、圧着後に圧着端子のカシメ部分が隠れるように取り付けてください。

※ カシメ部分から素線を 1mm 以上出すと、圧着端子と端子部に隙間ができ、ねじ緩みや接触不良の要因となります。

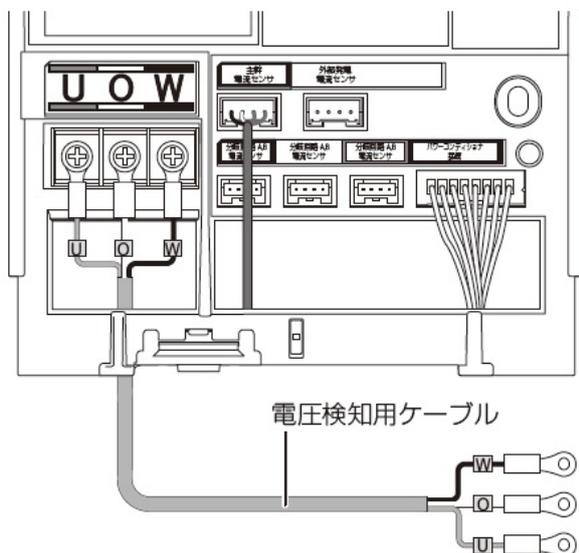


電圧検知用ケーブルの配線 (つづき)

配線

計測ユニットと分電盤の計測ユニット用ブレーカを電圧検知用ケーブルでつなぎます。

1 計測ユニットの端子台 U、O、W 端子に電圧検知用ケーブルをつなぐ

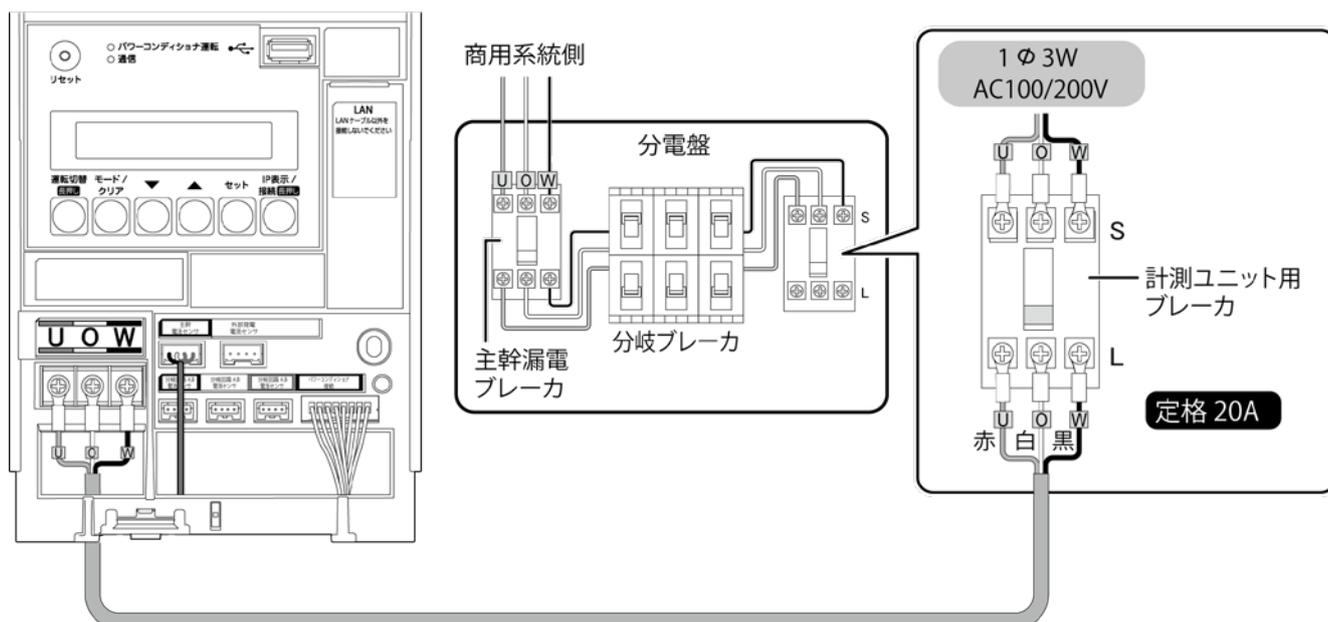


- 配線時の締め付けトルク : $1.4 \pm 0.2 \text{ N} \cdot \text{m}$
- 電動ドライバやインパクトドライバ等の過剰トルクがかかる工具は使用しないでください。

- 端子部分には、透明なプラスチック端子カバーがついております。取り外しの上、作業を実施してください。
- また、施工完了後は、安全のために必ず端子カバーを再度取り付けてください。

2 配線先の計測ユニット用ブレーカをオフにする

3 計測ユニット用ブレーカの 2 次側に、電圧検知用ケーブルをつなぐ

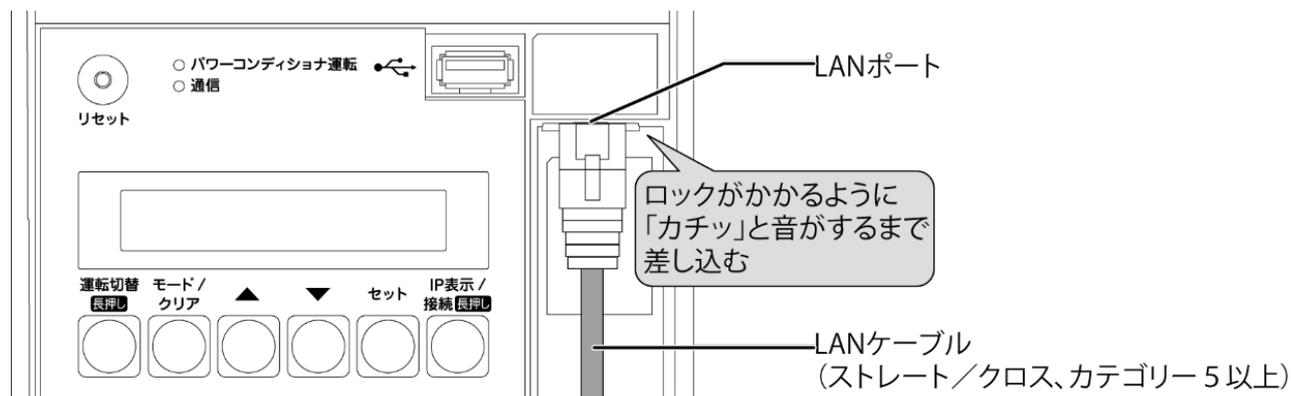


LAN ケーブルの配線

計測ユニットと LTE ルータ間は、同梱の LAN ケーブルで有線接続します。

1 計測ユニットに同梱の LAN ケーブルをつなぐ

- LAN ポートに接続してください。



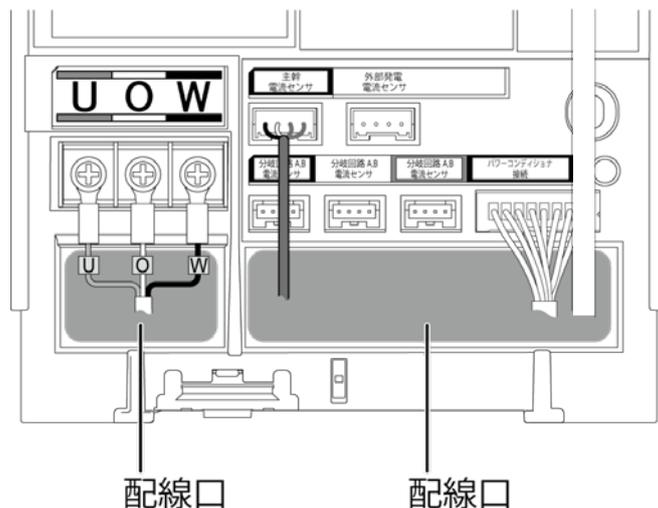
- LAN ポートに PCS 間通信ケーブル (別売) を接続しないでください。

※LTE ルータへの LAN ケーブル接続は、LTE ルータの設置後に行ってください。

設置／配線完了後の作業

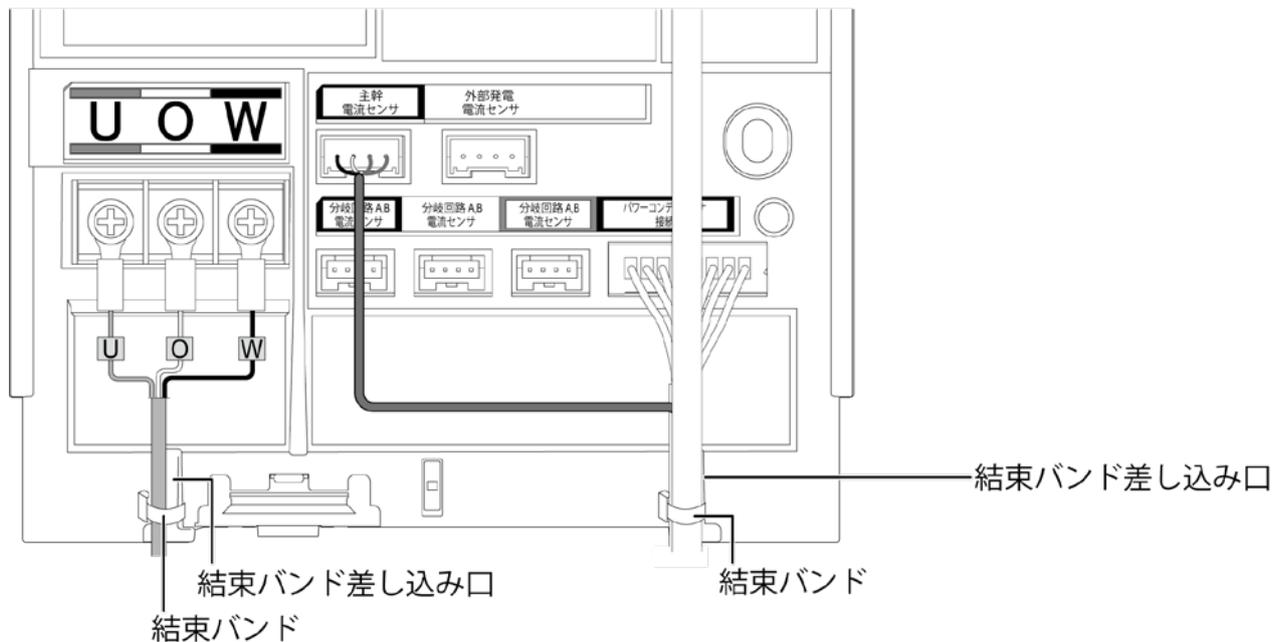
隠ぺい配線の場合のみ：計測ユニットの配線口をパテ埋めする

- 隠ぺい配線の場合は、ごみ、ほこり、虫などの侵入を防ぐために必ずパテ埋めしてください。



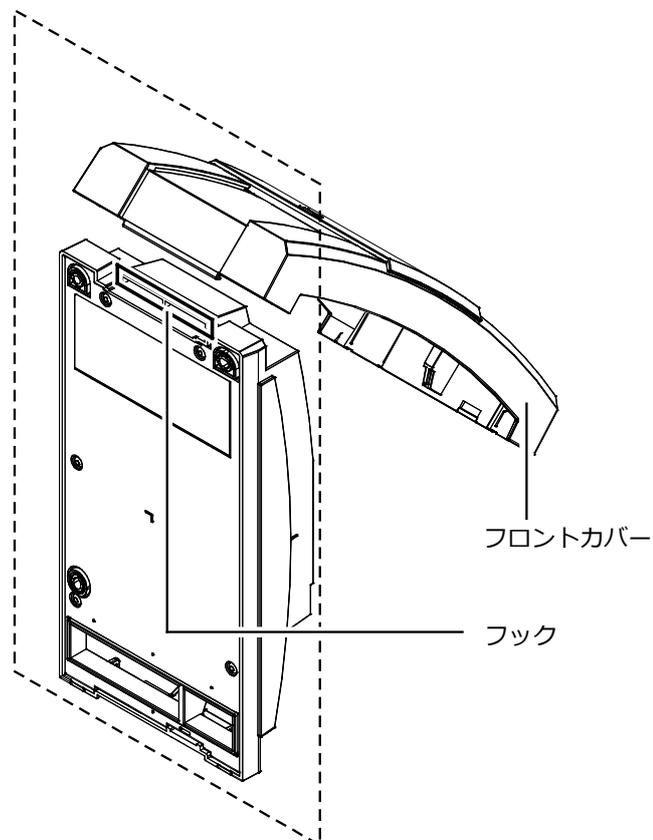
露出配線の場合のみ：結束バンドでケーブルを固定する

- 露出配線の場合は、必ず配線ケーブルを同梱の結束バンドで結束バンド差し込み口に固定してください。(結束バンドで固定しない場合、ケーブルの引っ張りなどにより、コネクタ抜け等が発生する恐れがあります。)
- 電圧検知用ケーブル(下図左)とその他のケーブルは、決して同じ結束バンドで結束しないでください。(結束すると、電源からのノイズの影響を受けて、極まれに誤差が生じる可能性があります。)



フロントカバーの取り付け

1 フロントカバーを計測ユニット上部のフックに引っ掛ける



2 フロントカバーを取付ける



LTE ルータの設置

1 LTE ルータを設置する

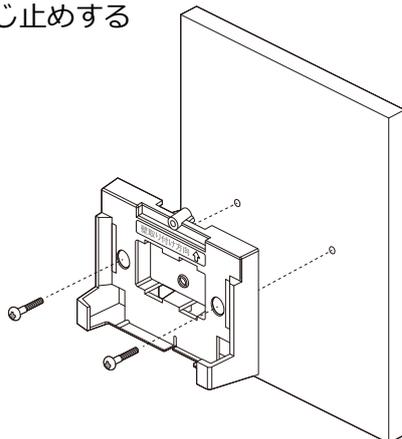
●LTE ルータを平置きするか、取り付け用ホルダーを使用して壁やラックなどへ設置してください。

■ 取り付け用ホルダーを使用して設置する方法

①以下のいずれかの取り付け用ホルダーを設置する

◆木材・石膏ボードなどに設置する場合

・壁面にねじ止めする



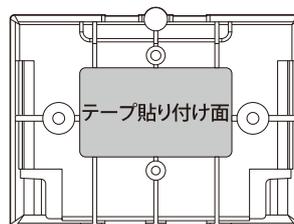
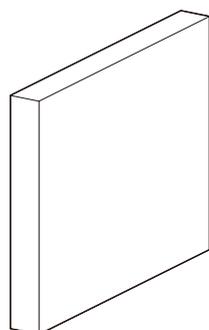
壁掛けに使用するネジについて
付属のネジは、以下の仕様です。

ネジ径：M3

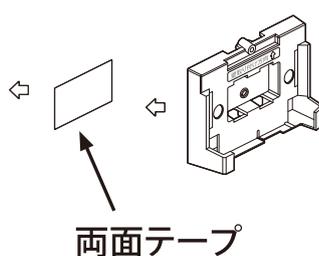
ネジ長さ：16mm

◆ガラス・コンクリートなどに設置する場合

・両面テープで固定する



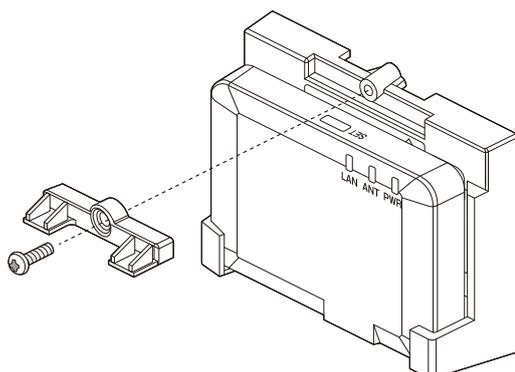
〈取り付け用ホルダー背面〉



両面テープ

②LTE ルータ本体をホルダーに取り付ける

③セキュリティストッパーを取り付ける



セキュリティストッパーに使用するネジについて
付属のネジは、以下の仕様です。

ネジ径：M3

ネジ長さ：10mm

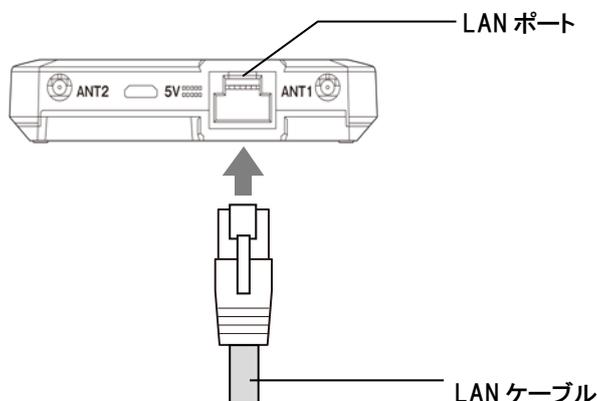
締め付けトルク：0.62N・m

ネジ種類：ヘクスローブ T10

LTE ルータの設置(つづき)

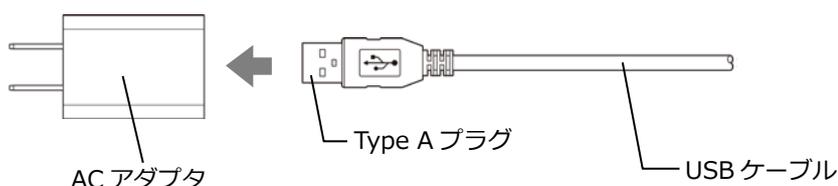
2 LTE ルータに LAN ケーブルをつなぐ

- 計測ユニットに接続した LAN ケーブルを、LTE ルータ側面の LAN ポートに接続してください。



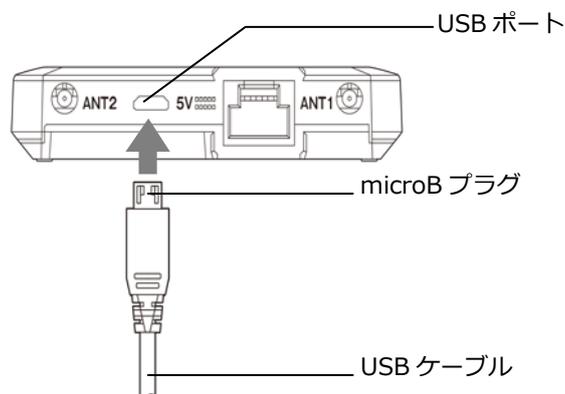
3 AC アダプタに AC アダプタ用 USB ケーブルをつなぐ

- LTE ルータに付属の、専用 AC アダプタと USB ケーブルを使用してください。
- USB ケーブルの Type A プラグを AC アダプタに差し込みます。



4 LTE ルータと AC アダプタをつなぐ

- 手順 2 の USB ケーブルを LTE ルータ本体に接続してください。
- USB ケーブルの microB プラグを LTE ルータ本体の USB ポートに差し込みます。



5 AC アダプタのプラグをコンセントにつなぐ

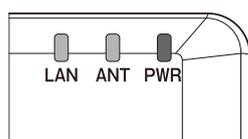
- AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続してください。

LTE ルータの設置(つづき)

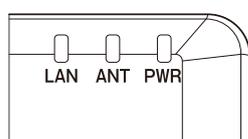
6 LTE ルータが起動したことを確認する

- 電源投入後、約 1 分程度で起動が完了します。
以下のランプ状態になっていることを確認してください。

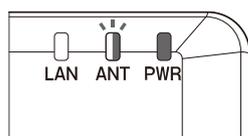
- ・PWR ランプ : 緑点灯
- ・ANT ランプ : ANT ランプ表示一覧参照 (下表) →設置環境により変化します。
- ・LAN ランプ : 緑点灯



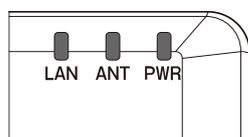
- ①電源投入直後
- ・LAN ランプ : 橙点灯
 - ・ANT ランプ : 橙点灯
 - ・PWR ランプ : 緑点灯



- ②約 2 秒後
- ・全ランプ : 消灯



- ③約 10 秒後
- ・LAN ランプ : 消灯
 - ・ANT ランプ : 緑点滅 (速い) ※1
 - ・PWR ランプ : 緑点灯



- ④約 1 分後
- ・LAN ランプ : 緑点灯
 - ・ANT ランプ : 電波状況に応じた状態を表示
 - ・PWR ランプ : 緑点灯

●ANT ランプ表示一覧

ランプ表示	電波受信強度・状態説明
緑点灯	LTE 信号強度「良好」※2
緑点滅 (遅い) ※1	LTE 信号強度「弱」※2
橙点灯	3G 信号強度「良好」※2
橙点滅 (遅い) ※1	3G 信号強度「弱」※2
消灯	圏外※2
緑点滅 (速い) ※1	LTE 接続処理中、または 電源 ON からシステム起動完了まで
橙点滅 (速い) ※1	3G 接続処理中
赤点灯	SIM 認識エラー

※1：点滅の周期：「速い」=点灯 1 秒・消灯 1 秒、「遅い」=点灯 2 秒・消灯 1 秒

※2：LTE 信号強度「良好」以外は、安定した通信を行えない場合があります。LTE ルータの設置位置を変更してください。

起動後に上記ランプ以外の表示になる場合は、巻末のお問い合わせ先に連絡をしてください。

計測ユニットの起動

● 起動前の確認

起動を始める前に、以下の項目を確認してください。

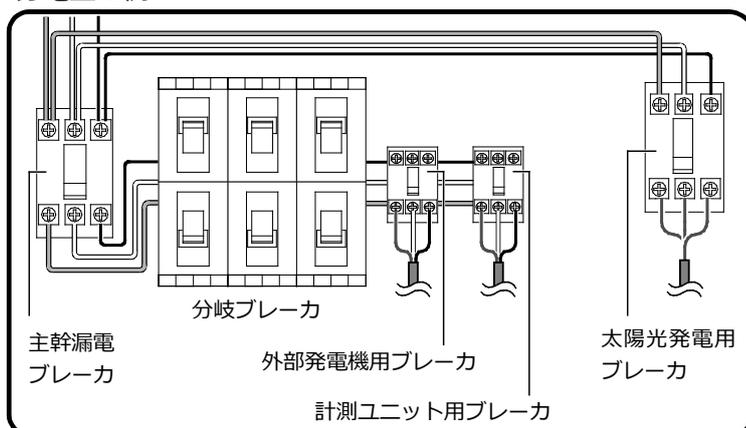
- 本製品(計測ユニット、計測ユニット用ブレーカ、LTEルータ、スマートメータなど)の設置・電源配線が完了している
- 接続しているパワーコンディショナの施工が完了している
パワーコンディショナの施工については、パワーコンディショナの施工マニュアルをお読みください。
- パワーコンディショナが起動できる日射量がある
初期設定の際はパワーコンディショナと通信を行うため、パワーコンディショナが起動できる日射量があるとき(早朝・夕方を除く、照度が安定している状態)に、本製品の初期設定を行ってください。太陽光発電ブレーカはオフの状態での初期設定をおこないます。

● 起動する

システムを起動する前に、以下の状態を確認してください。

- LTEルータが起動しているか
- パワーコンディショナのすべての入力開閉器(または接続箱のすべての開閉器)が**オフ**になっているか*
- 太陽光発電用ブレーカが**オフ**になっているか*
- パワーコンディショナの運転スイッチが**オフ**になっているか*
- 計測ユニット用ブレーカが**オフ**になっているか。

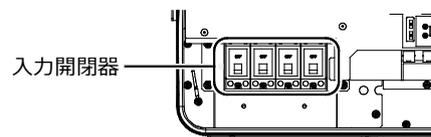
分電盤の例



1 接続箱のすべての開閉器(またはパワーコンディショナの入力開閉器)をオンにする*

- パワーコンディショナの表示部に「E 1-0」または「E 1-0 . 0」と表示され、パワーコンディショナが起動します。

KP□M-J4 の例



2 計測ユニット用ブレーカを ON にする

- 計測ユニットが起動を開始します。
- 起動すると、計測ユニットの状態表示ランプが緑色点滅します。



※ パワーコンディショナが複数台設置されている場合は、すべてのパワーコンディショナで確認、操作を行ってください。

初期設定

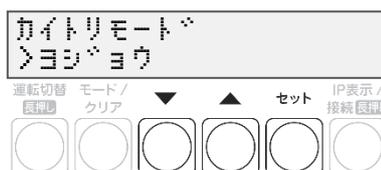
● 基本情報を設定する

1 「シヨキセツテイカイシ」が表示されている状態で
セットボタンを押す



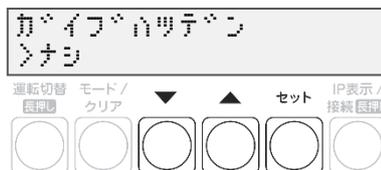
2 ▼ / ▲ボタンで買取モードの余剰を選び、
セットボタンを押す

- 「ヨジョウ」を選んでください。



3 ▼ / ▲ボタンで外部発電計測の無しを選び、
セットボタンを押す

- 「ナシ」を選んでください。



初期設定(つづき)

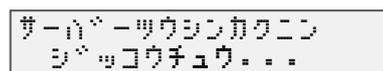
● 通信テストを実施する

1 「サーバーツウシンカクニン ジッコウシマス」が表示されている状態で、セットボタンを押す



2 「サーバーツウシンカクニン OK」を確認し、セットボタンを押す

- 通信テストが成功すると、『サーバーツウシンカクニン OK』が表示されます。



手順 3 へ進む

『サーバーツウシンカクニン NG』と表示された場合』

- 表示によって、以下の原因が考えられます。
 - ツウシンエラー (通信ができない)
 - エラージュシン (サーバーからの異常を受信)
 - レスポンスエラー (その他異常)
- 通信確認が成功しないと次の設定へは進めません。セットボタンを押し、手順 1 に戻って再度設定してください。



手順 1 へ戻る

3 日時を確認する

- 時刻が表示されるので、現在時刻であることを確認してください。セットボタンを押し、『●パワーコンディショナを登録する』に進んでください。

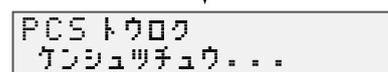


初期設定(つづき)

● パワーコンディショナを登録する

1 ▼ / ▲ボタンでパワーコンディショナの登録台数(最大 6 台)を選び、セットボタンを押す

例：パワーコンディショナを 3 台設置している場合



手順 2 へ

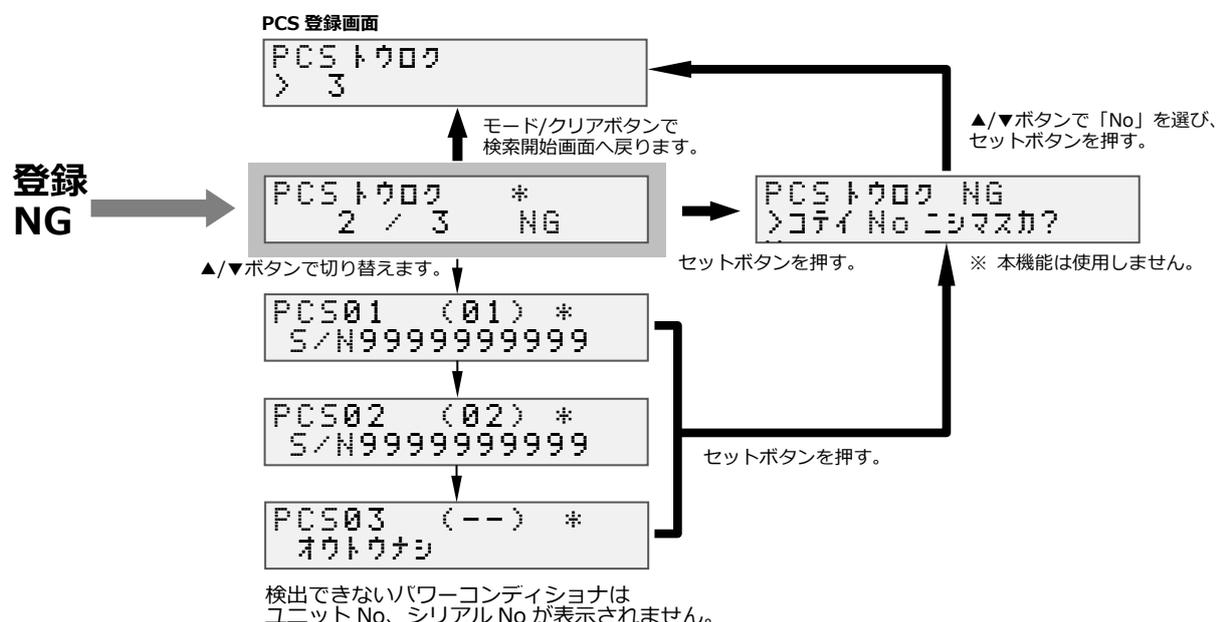
- 接続されているパワーコンディショナを自動で検索します。自動検索後、「検出台数 / 登録台数」が表示され、OK と表示されることを確認してください。
- (例：パワーコンディショナを 3 台設置している場合) 「PCS トウロク ケンシュツチュウ...」の表示後、「PCS トウロク 3/3 OK」と表示されます。

- 「NG」が表示されている場合は、パワーコンディショナの登録台数と検出台数に差異があります。下記を確認した後にモード/クリアボタンを押して、もう一度設定してください。



- パワーコンディショナの台数の設定が正しいか
- 計測ユニットの配線が正しいか (P.27、P.30~P.33)
- パワーコンディショナの配線・設定が正しいか (P.30~P.33)
- パワーコンディショナが起動しているか (P.49)
- パワーコンディショナのユニット No.が重複していないか (参照：パワーコンディショナの施工マニュアル)

“PCS トウロク NG”表示時の再設定手順



初期設定(つづき)

2 ▼ / ▲ボタンで各パワーコンディショナの パワコン No.、ユニット No.、シリアル No.(製造番号) を確認して、セットボタンを押す

- ▼ / ▲ボタンで検索されたパワーコンディショナのシリアル No が確認できます。

・パワコン No ... 計測ユニットが割り当てた番号
・ユニット No ... 施工前にパワコンに設定した番号

パワコン No ユニット No

PCS02 (02) *
S/N9999999999

パワコンのシリアル No

■サポートメール

■□
パワコンエラー検知のご報告 (10/31)

株式会社〇〇〇〇 様

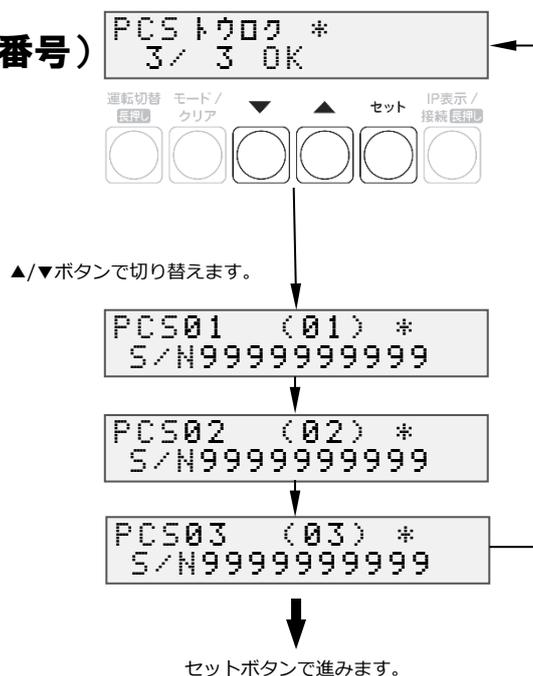
日頃から「エコめがね i」サービスをご愛顧頂き、誠にありがとうございます。
パワコンエラーを検知しましたのでご報告致します。
※ 下記エラーは現地対応が必要と思われるエラーを1時間に1回確認してお知らせして
います。
※ エラー情報内の日付は、パワコンのエラー発生時刻を表示しています。
▽パワコンエラー検知(時)に関するヘルプ
http://partner.eco-megane.jp/bhowtouse/bhelp07_02.html

■商品 ID : 9002-241-4860 ■

施主様名 (MEMO) : スマイル太郎
設備名 (MEMO) : スマイル様滋賀発電所
設置先住所 : 滋賀県長浜市 XXX 8-8-8

●PCS#02 / #02

PCS#02 / #02
パワコン No / ユニット No



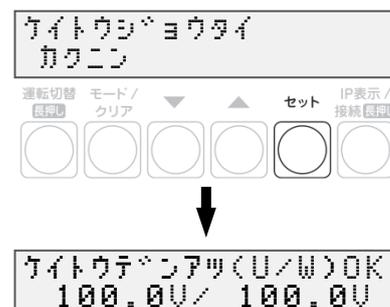
3 ▼ / ▲ボタンで「No」を選び、セットボタンを押す

- 本機能は使用しません。



4 計測ユニットの電源電圧を確認し、セットボタンを押す

- セットボタンを押す



初期設定(つづき)

● 主幹用電流センサを設定する

1 「ケイトウデンアツ」が表示されている状態で、
セットボタンを押す



2 U相/W相に電流を流す

- 主幹計測用電流センサの方向の確認を開始する前に、U相側、W相側のコンセントにそれぞれ150W以上の電化製品（掃除機、ドライヤーなど）を接続し、運転させてください。
※手順6終了後は、運転を停止してください。

3 「シュカンケイソクセンサ ホウコウカクニン」
が表示されている状態で、セットボタンを押す



4 「デンリョク(ハツデン)OK」と表示され、
パワーコンディショナの発電電力が「0W」になっている
ことを確認し、▼ / ▲ボタンを押す



5 「ケイトウデンリョク OK」と表示され、U相、W相共に
「+150W」以上になっていることを確認し、
セットボタンを押す

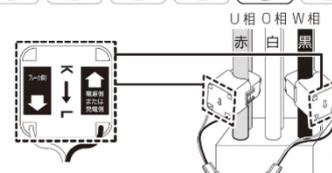


- 150W以上の消費電力の機器を用意できていない場合は、この画面で方向確認ができませんので、主幹用電流センサの設置状態を目視で確認(主幹用電流センサの設置、P.34～P.35)し、セットボタンを押してください。
- 正の値で150W未満の数値が出ている場合は、U相側、W相側のコンセントに電化製品を追加してください。

6 「シュカンケイソクセンサ OK」と表示されていることを
確認して、セットボタンを押す



- 「ハンテイデキズ」と表示された場合もセットボタンを押して、次の手順に進んでください。
- 「ギャクセツゾク」と表示された場合は、主幹用電流センサの設置方向が間違っています。設置方向を確認(P.34～P.35)してください。「ギャクセツゾク」と表示された状態でモード/クリアボタンを2回押すと、手順3に戻りますので、再度設定を行ってください。



初期設定(つづき)

● 分岐用電流センサの設定

1 「ブンキセンサ >ダイスウ? 0」が表示されていることを確認して、セットボタンを押す

- 「0」を選んでください。



● パルス設定、パルスカウント設定を実行する

1 「パルスセッテイ >ナシ」が表示されている状態で、▼ / ▲ボタンで「パルス A」を選び、セットボタンを押す



2 「パルス A >Single」が表示されている状態で、セットボタンを押す

- 「Single」を選んでください。



3 「パルス A キョクセイ >High」が表示されている状態で、セットボタンを押す

- 「High」を選んでください。



4 「パルス A ハバ >5ms」が表示されている状態で、セットボタンを押す

- 「5ms」を選んでください。



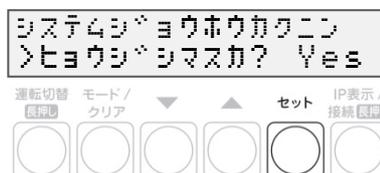
5 「パルスセッテイ >セッテイシマスカ? No」が表示されている状態で、▼ / ▲ボタンで「Yes」を選び、セットボタンを押す



初期設定(つづき)

● システム情報の確認を行う

1 「システムジョウホウカクニン
>ヒョウジシマスカ? Yes」と表示されている
状態で、セットボタンを押す



2 ▼ / ▲ボタンでシステム情報を表示させ、
設定した内容が正しいか確認する

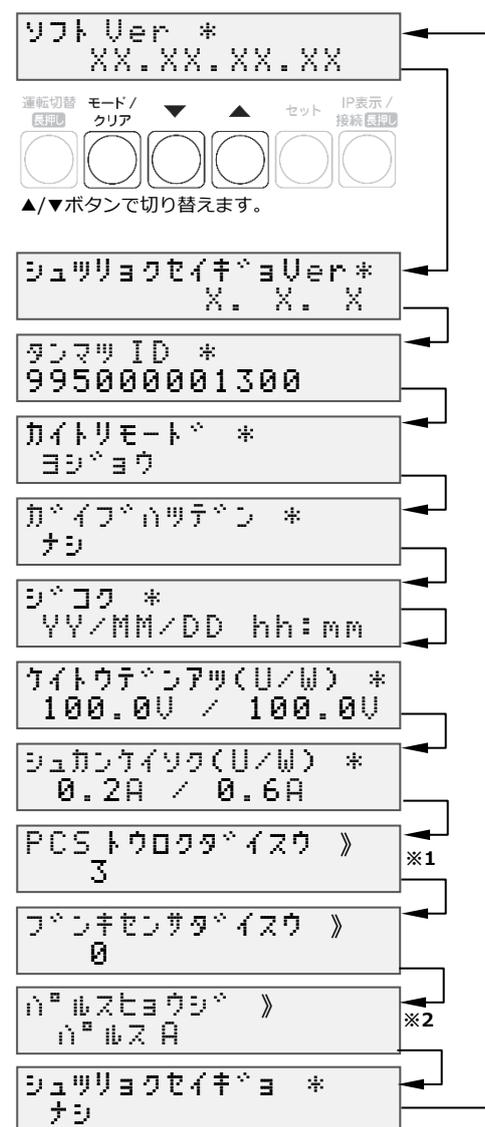
● 右図は表示例です。

※1 「PCS トウロクダイスウ」の表示中に
セットボタンを押すと P.53~P.54 で登録した PCS の情報が
表示されます。
▼ / ▲ボタンで各パワーコンディショナの設定を
確認できます。

● モード/クリアボタンを押すと
「PCS トウロクダイスウ」の表示に戻ります。

※2 「パルスヒョウジ」の表示中にセットボタンを押すと
「パルス A *」が表示されます。
この画面では、スマートメータからの
パルス発信信号のカウント数を確認することができます。
初期設定時は、「00000000」が表示されます。

● モード/クリアボタンを押すと「パルスヒョウジ」
の表示に戻ります。



↓ モード/クリアボタンで進みます

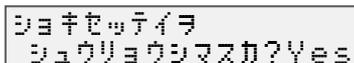
3 モード/ クリアボタンを押す



初期設定(つづき)

● 初期設定を終了する

1 「シヨキセツテイヲシュウリョウシマスカ? No」と表示されている状態で、▼ / ▲ボタンで「Yes」を選び、セットボタンを押す



シヨキセツテイヲ
シュウリョウシマスカ? Yes

- 設定をやり直す場合は、▼ / ▲ボタンで「No」を選び、セットボタンを押してください。
「●システム情報の確認を行う」(P.57) の手順 1 の画面まで戻ります。
以降は、モード/クリアボタンを繰り返し押して、設定したい項目まで戻ってから設定をやり直してください。

以上で設置作業、および初期設定は終了です。これより計測を開始します。

👉 接続しているパワーコンディショナが KP□K / KP□K2 シリーズ以外の場合は、
続いてパワーコンディショナの動作確認をおこないます。

パワーコンディショナの動作確認

接続しているパワーコンディショナがKP□K / KP□K2シリーズ以外の場合、計測ユニットからパワーコンディショナの運転停止/再開の切り替えが可能です。
 連系を行う前に、本機能が正常に動作することを確認してください。

- 太陽電池が発電中に確認を行ってください。
- 接続箱のすべての開閉器（またはパワーコンディショナの入力開閉器）、太陽光発電用ブレーカおよびパワーコンディショナの運転スイッチがオフの状態を確認を始めてください。*
- 停電用コンセントに電気製品を接続せずに動作確認を行ってください。
- パワーコンディショナを複数台設置している場合は、全台一括操作となります。個別にパワーコンディショナを操作することはできません。

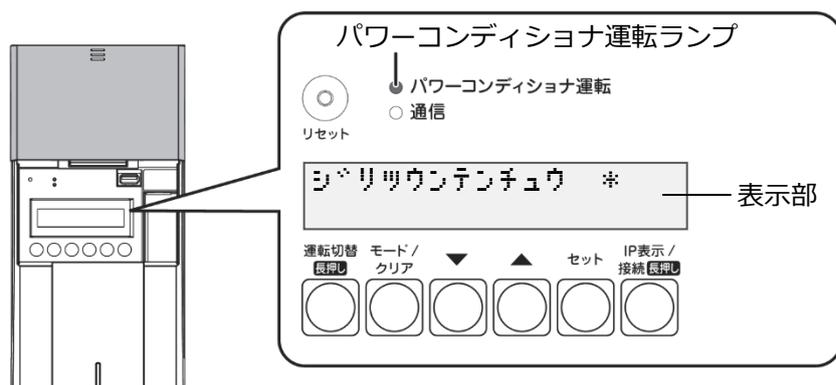
1 接続箱のすべての開閉器(またはパワーコンディショナの入力開閉器)をオンにする*

- パワーコンディショナの表示部に「E1-0」または「E1-0.0」と表示されることを確認してください。
- KP□R では、異常ランプの点滅でも起動を確認できます

2 パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

- パワーコンディショナが自立運転を開始します。

3 計測ユニットを確認する



- 計測ユニットのスライドカバーを開けてください。
- 計測ユニットの表示部に「シブリツウンテンチュウ」が表示され、パワーコンディショナ運転ランプが橙色点灯します。
- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。

4 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けて、パワーコンディショナの運転を停止する

- 計測ユニットの表示部に「ウンテンキリカエ ジッコウチュウ...」、「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が停止することを確認してください。
 (パワーコンディショナ運転ランプが赤色点灯します)



* パワーコンディショナが複数台設置されている場合は、すべてのパワーコンディショナで確認、操作を行ってください。

パワーコンディショナの動作確認(つづき)

5 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けて、パワーコンディショナの運転を開始する

- パワーコンディショナが自立運転を開始し、計測ユニットの表示部に「ウンテンキリカエ ジッコウチュウ…」、「ジリツウンテンチュウ」と表示されることを確認してください。



6 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けて、パワーコンディショナの運転を停止する

- 計測ユニットの表示部に「ウンテンキリカエ ジッコウチュウ…」、「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が停止します。(パワーコンディショナ運転ランプが赤色点灯します)



7 パワーコンディショナ本体の運転スイッチをオフにする

- パワーコンディショナ本体の運転スイッチがオフになっているときは、計測ユニットから運転操作はできません。
- 施工完了直後から系統連系が可能な場合は、運転スイッチはオンにしてください。
- パワーコンディショナが複数台設置されている場合は、すべてのパワーコンディショナで操作を行ってください。

● 連系をおこなわない場合

計測ユニット用ブレーカ、接続箱のすべての開閉器（またはパワーコンディショナの入力開閉器）、太陽光発電用ブレーカおよびパワーコンディショナの運転スイッチを**オフ**にしてください。LTE ルータの AC アダプタを電源コンセントから外してください。

● 連系をおこなう場合

計測ユニット用ブレーカ、接続箱のすべての開閉器（またはパワーコンディショナの入力開閉器）、太陽光発電用ブレーカおよびパワーコンディショナの運転スイッチを**オン**にしてください。LTEルータのACアダプタを電源コンセントにつないでください。

以上で、システムの設置作業はすべて終了です。

 出力制御設定が必要な方は、「出力制御設定をする」(P.61)に進んでください。

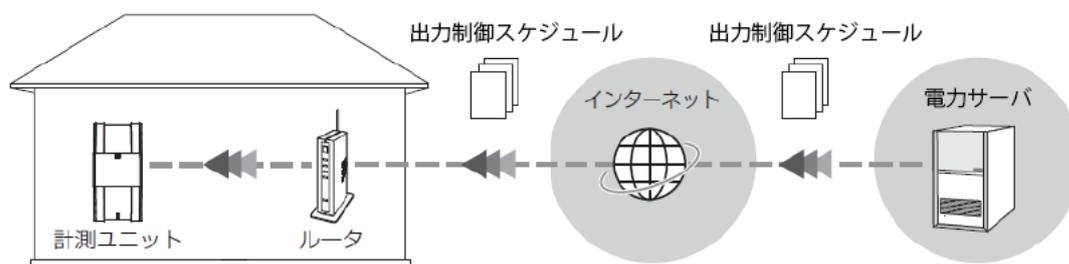
出力制御設定をする

出力制御に対応するためには、対象となる発電事業者様の設備に対し設定が必要となります。出力制御設定をする際は、パワーコンディショナと本製品の施工および初期設定が完了している必要があります。

- 出力制御に対応していないパワーコンディショナの場合、出力制御設定ができません。
- 出力制御設定が完了すると、計測ユニットとパワーコンディショナが正常に通信していないとパワーコンディショナが停止します。

● 出力制御概要

出力制御とは、安定した電力供給を行うため、電力会社のサーバ（電力サーバ）で提供される出力制御スケジュール（日時と制御量）を取得し、電力会社が太陽光発電設備から電力系統への出力を制限することです。



● 出力制御設定値の入手

出力制御設定に必要な情報は以下となります。

項目名	説明	入手方法
発電所 ID	発電所を特定するための 26 桁の数字	出力制御の申請手続きで電力会社から配布される資料に記載
出力変化時間	出力制御値までにかかる時間を 5~10 分の 1 分単位で指定する	
電力サーバ	電力会社毎の電力サーバ	
契約容量*	パワーコンディショナ毎の契約容量	設備情報の確認
動作方式	パワーコンディショナ毎に制御する方法で、スケジュールとクリップを選択する	容量が大きい PCS に交換をした場合以外はスケジュールを選択 (詳細は電力会社へ問い合わせてください)

※パワーコンディショナに接続されているパネル容量と、パワーコンディショナ容量の小さい方を設定する必要があります。パワーコンディショナが複数台ある場合は、全てのパワーコンディショナに容量の設定が必要です。

出力制御設定をする(つづき)

● ソフトウェア バージョンの確認

計測ユニットのソフトウェア バージョンを確認します。ソフトウェアのバージョンによっては、出力制御設定を行うことができません。

1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」もしくは「デンリョク」が表示されている状態で、モード/クリアボタンを押す

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。



2 ▼ / ▲ボタンで「システムジョウホウカクニン」を選び、セットボタンを押す



3 出力制御設定が可能なソフトウェアバージョンであることを確認する



- 出力制御設定が可能なソフトウェア バージョンは以下の通りです。

Ver. 3 . * . * . *

└─▶ 一桁目が3以上であること

- ソフトウェア バージョンが上記ではない場合、ソフトウェア更新が必要になります。「ソフトウェアを更新する」(P.75)をご確認ください。(手動にてソフトウェア更新をする場合は、現地に更新ソフトウェアを持参する必要があります。)

出力制御設定をする(つづき)

● 出力制御設定をする

1 モード/クリアボタンを2回押して、「レンケイウンテンチュウ」表示にする

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。



2 セットボタンとモード/クリアボタンを同時に長押しする



3 ▼ / ▲ボタンで「システムセッテイ」を選び、セットボタンを押す



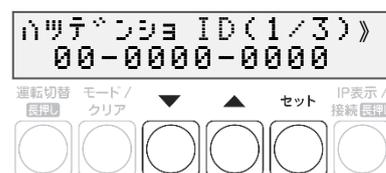
4 ▼ / ▲ボタンで「シュツリョクセイギョセッテイ」を選び、セットボタンを2回押す



5 ▼ / ▲ボタンで「アリ」を選び、セットボタンを押す



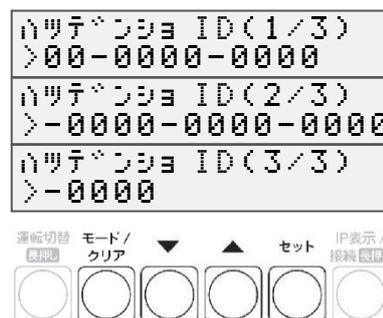
6 ▼ / ▲ボタンで「ハツデンショ ID」を選び、セットボタンを押す



出力制御設定をする(つづき)

7 発電所 ID を入力する

- ▲/▼ボタンで一桁ずつ入力します。
- セットボタンで次の桁へ、モード/クリアボタンで前の桁へ移動します。
- 最後の桁の入力終了後、セットボタンで入力完了します。



8 ▼ / ▲ボタンで「ケイラクジョウホウ」を選び、セットボタンを押す

- 各パワーコンディショナのシリアルNoを表示します。
- ▲/▼ボタンを押してパワーコンディショナを選択し、セットボタンを押します。

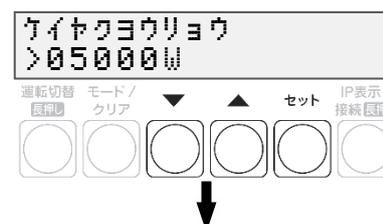


9 ▼ / ▲ボタンで「ケイラクヨウリョウ」を選び、セットボタンを押す



10 契約容量を入力する

- ▲/▼ボタンで一桁ずつ入力します。
- セットボタンで次の桁へ、モード/クリアボタンで前の桁へ移動します。
- 最後の桁の入力終了後、セットボタンで入力完了します。
- W (ワット) 単位で入力してください。



出力制御設定をする(つづき)

11 ▼ / ▲ ボタンで「ドウサホウシキ スケジュール」を選ぶ

動作方式がスケジュール制御の場合

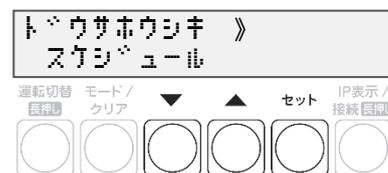
- 次の手順へ進んでください

動作方式がクリップ制御の場合

- セットボタンを押して▲/▼ボタンで「クリップ」を選択し、セットボタンを押します。
- クリップ容量の設定画面に遷移するため、▲/▼ボタンで一桁ずつ入力します。
- セットボタンで次の桁へ、モード/クリアボタンで前の桁へ移動します。
- 最後の桁の入力終了後、セットボタンで入力が完了します。

動作方式が制御なしの場合

- セットボタンを押して▲/▼ボタンで「ナシ」を選択し、セットボタンを押します。



12 モード/クリアボタンを押して各パワーコンディショナを選択する画面に戻る

- 手順8~11を繰り返して各パワーコンディショナの契約容量を設定します。
- 全てのパワーコンディショナの設定が完了してから次の手順へ進みます。



13 モード/クリアボタンを押して確認画面を表示し、セットボタンを押す



14 「ケイラクジョウホウ」が「セツテイズミ」になることを確認する

- 「フセイゴウ」が表示された場合は設定を確認します。
- 「ミセツテイ」が表示された場合は、「ケイラクヨウリョウ」が「0」になっていないか確認してください。



15 ▼ / ▲ ボタンで「スケジュールシユトク」を選び、セットボタンを2回押す



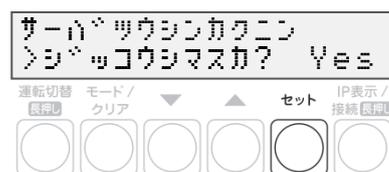
出力制御設定をする(つづき)

**16 ▼ / ▲ボタンで該当電力サーバを選び、
セットボタンを押す**

表示名称	説明
キュウデン 1	九州電力の電力サーバ
ヨンデン 1	四国電力の電力サーバ
オキデン 1	沖縄電力の電力サーバ
トウホクデン 1	東北電力の電力サーバ
チュウゴクデン 1	中国電力の電力サーバ



17 セットボタンを押してサーバ通信確認を行う



18 通信確認が OK であることを確認し、セットボタンを押す

- NG と表示された場合は、P.67 の表を参照ください。
- 通信環境を確認する場合は、LTE ルータの起動状態 (P.48) を確認してください。



**19 「スケジュールシユトク オンライン」と表示されたことを
確認する**



**20 ▼ / ▲ボタンで「シユツリヨクヘンカジ カン」を選び、
設定値を確認する**

- 出力変化時間が電力会社の指示通りでない場合はセットボタンを押して設定値変更画面へ移動し、▲/▼ボタンで指示された値を選び、セットボタンで決定します。

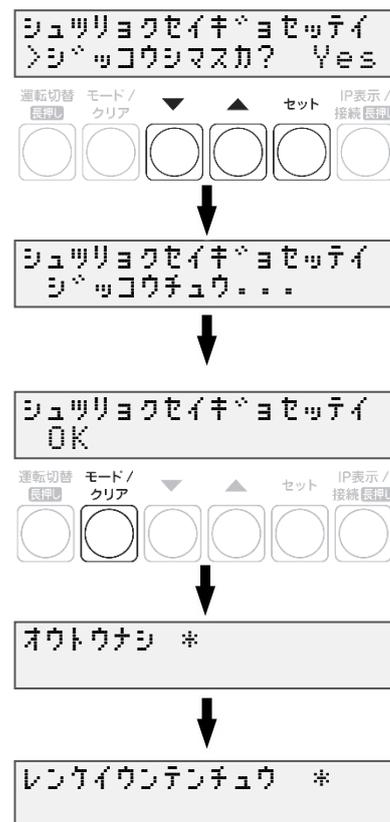


21 モード/クリアボタンを押し、確認画面を表示する



出力制御設定をする(つづき)

22 ▼ / ▲ボタンで「Yes」を選び、セットボタンを押す



23 出力制御設定が OK であることを確認する

- NGが表示された場合は、以下を確認してください。
- OKと表示されれば、モード/クリアボタンを3回押して、メイン画面に戻って終了してください。
- 出力制御設定後すぐにメイン画面に戻ると「アウトウナシ」と表示される可能性があります。その後、パワーコンディショナが正しく発電している状態であれば「レンケイウンテンチュウ」と表示されます。

画面表示	対応
NG ケイヤクミセツテイ	「ケイヤクジョウホウ」で設定した「ケイヤクヨウリョウ」が「0」になっていないか確認してください。
NG ケイヤクイジョウ	パワーコンディショナが出力制御に対応しているか確認してください。
NG セツゾクサキミセツテイ	電力サーバが設定されているか確認してください。
NG LAN ミセツゾク	LAN ケーブルの接続を確認してください。
NG ジコクドウキシツパイ	ルータとの接続経路を確認ください。異常のない場合は、巻末のお問い合わせ先に連絡してください。
NG セツゾクイジョウ	
NG サーバイジョウ	巻末のお問い合わせ先に連絡してください。
NG システムイジョウ	
NG	
NG ID ミトウロク	発電所 ID を確認してください。
NG ID フセイ	

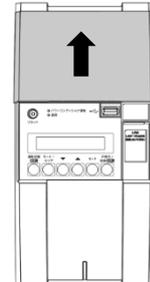
取扱方法

表示部の見方

計測ユニットの表示部で現在の発電電力、パワーコンディショナの運転モード、エラーコードを確認できます。

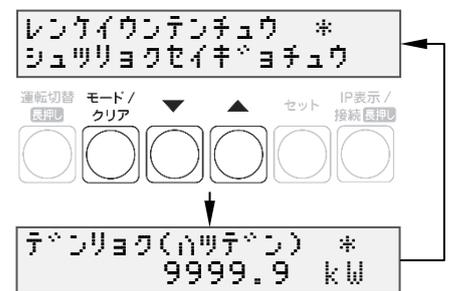
1 計測ユニットのスライドカバーを矢印の方向にスライドさせる

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。
- 表示部の確認や操作が終わりましたら、スライドカバーは閉めてください。



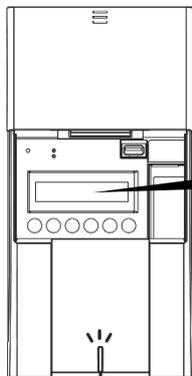
2 ▼ / ▲ボタンを押して表示を切り替えます

- ボタンを押すごとに、右記のように表示部に表示されます。
- 出力制御中は、メイン画面に制御中であることが表示されます。



▲/▼ボタンで切り替えます。

- 異常が発生している場合、下記のように表示部でエラーを確認できます。



状態表示ランプ

エラー (1 / 3)
コード E4-3.0 (01)

現在発生中のエラー件数と、その何件目かを表示

エラーコード

パワコン No.
計測ユニットの場合は (--)

スライドカバーを開けると、表示部に現在発生中のエラーが表示されます。

- 現在発生中のエラーが複数表示されている場合は、▼ / ▲ボタンで表示を切り替えることができます。(最大 25 件まで)
- モード/ クリアボタンを押すと、通常のメイン画面が表示されます。もう一度表示するには、モード/ クリアボタンを 2 秒以上押ししてください。

- エラーコードの示すエラー内容については、エコめがね 販売会社さま向けサイトの下記のページより、「EIGセンサー パワコンエラーコード・対応方法一覧」をご参照ください。
<https://www.eco-megane.jp/partner/support/faq/detail/32>
(EIGセンサーの「単相はこちら」をお選びください。)

- 計測ユニットの状態表示ランプでも異常をお知らせします。
 - 緑色点灯：通常動作中
 - 緑色点滅：初期設定完了前
 - 橙色点滅：停電中
 - 赤色点灯：自動復旧が不可能な異常発生中
 - 赤色点滅：自動復旧の可能性のある異常発生中
 - 消灯：全パワーコンディショナが夜間発電停止状態かつ、無操作時

通信確認を実施する

計測ユニットとサーバとの疎通を確認できます。

- 実施する前に、LTE ルータが正常に起動していることを確認(P.48)してください。

1 計測ユニットの表示部が消灯している場合は、
いずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、
モード/クリアボタンを押す



2 ▼ / ▲ボタンで「システムセッテイ 》」を選び、
セットボタンを押す



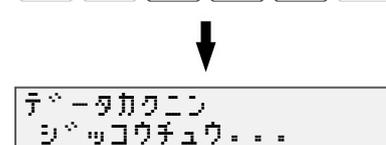
3 ▼ / ▲ボタンで「ジョウホウサーバカクニン」
を選び、セットボタンを押す



4 「ジョウホウサーバセツゾク アリ」の表示で、
セットボタンを押す



5 ▼ / ▲ボタンで「データカクニン」を選び、
セットボタンを押す



通信確認を実施する(つづき)

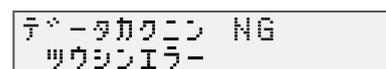
6 通信結果が OK であることを確認する

- モード/クリアボタンを 5 回押して、メイン画面に戻って終了してください。



●データカクニン NG ツウシンエラーと表示された場合

インターネットへ接続できておりません。
LTE ルータの LED ランプを確認し、動作状態を確認してください。(P.18、P.48)



【原因】以下の可能性があります。

- ・ LTE ルータの起動が完了していない
- ・ LTE ルータに異常が発生していない
- ・ LTE 電波エリアの圏外である

パワーコンディショナを操作する

接続しているパワーコンディショナがKP□K / KP□K2シリーズ以外の場合、計測ユニットからパワーコンディショナを操作して、連系運転/自立運転/運転停止の切り替えができます。

- パワーコンディショナを複数台設置している場合は、全台一括操作となります。個別に操作することはできません。

お使いのパワーコンディショナがKP□KシリーズかKP□K2シリーズの場合、計測ユニットからパワーコンディショナの操作はできません。パワーコンディショナから操作してください。

● 通常時の使い方(連系運転)

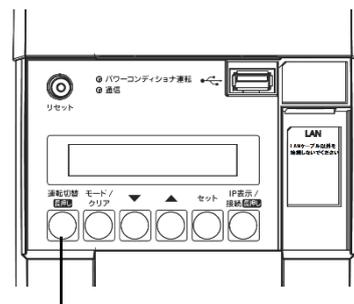
通常時(連系運転)の場合、計測ユニットでの操作は不要です。

■ パワーコンディショナの運転を停止させるには 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押す

- パワーコンディショナ運転ランプが赤色に点灯し、表示部に「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナが停止します。
- 停止操作をすると、パワーコンディショナは停止状態を保つため、自動的に起動しません。(例えば、停止操作後に日が暮れた場合、翌朝もパワーコンディショナは停止状態を継続します。)
- 運転を再開させるためには、運転開始操作をしてください。

■ パワーコンディショナの運転を再開させるには 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押す

- パワーコンディショナ運転ランプが緑色に点灯し、表示部に「レンケイウンテンチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が再開します。



運転切替ボタン

お知らせ

- 夜間など太陽光が発電しないときは、計測ユニットでのパワーコンディショナの運転停止/再開の操作はできません。

● 停電時の使い方(自立運転)

日中(太陽光発電中)に停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、計測ユニットの状態表示ランプが橙色に点滅します。下記の操作をして、自立運転に切り替えると、太陽光発電された電力を停電用コンセントから使用することができます。

- 夜間など太陽電池が発電していないときは、計測ユニットのすべての表示が消灯し、自立運転への切り替えはできません。

1 太陽光発電用ブレーカをオフにする



2 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける

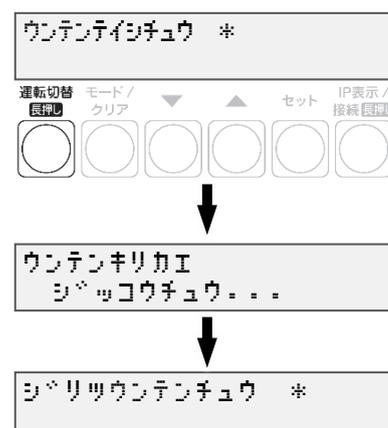
- パワーコンディショナの運転が停止します。



パワーコンディショナを操作する(つづき)

3 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける

- 自立運転を開始すると、パワーコンディショナ運転ランプが橙色に点灯し、表示部に「ジリツウンテンチュウ」と表示されます。



4 停電用コンセントに、使用したい機器を接続する

- 突然停止しても安全性に問題がない機器を接続してください。下記の機器は停電用コンセントに接続しないでください。
 - すべての医療機器
 - 灯油やガスを用いる冷暖房機器
 - パソコン、ワープロなどの情報機器
 - その他、途中で止まると生命や財産に損害を及ぼす機器
- 接続する機器の合計消費電力は、1500VA以下（AC 100Vで最大15A以下）になるようにしてください。
- ▼ / ▲ボタンを押すと、表示部が電力表示に切り替わり、停電用コンセントに接続した機器の消費電力の値が表示されます。（何も接続していない場合は“0.0”が表示されます）

■ 自立運転が停止してしまったら

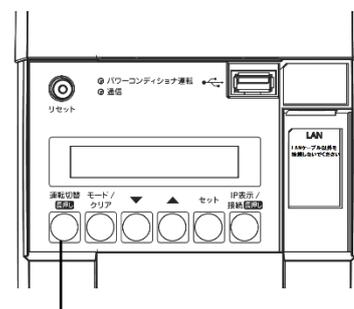
パワーコンディショナは、天候の変化によって太陽電池の発電電力が低下したときや日の入り時に、自動的に自立運転を停止します。自立運転を再開させる場合は、計測ユニットの状態表示ランプが橙色に点滅してから、「停電時の使い方（自立運転）」(P.71～P.72)の手順2～3を行ってください。

- 夜間など太陽電池が発電していないときは、計測ユニットのすべての表示が消灯し、自立運転を再開させることはできません。

お知らせ

- 自立運転を停止させるには、計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けてください。もう一度運転切替ボタンを2秒以上押し続けると、自立運転を再開します。
- 掃除機や冷蔵庫など、電流が急激に流れる機器を使用すると、保護機能が働いてパワーコンディショナが停止する場合があります。保護機能が働いて自立運転が停止した場合は、以下の手順で再開してください。

- 1 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける
 - パワーコンディショナが運転を停止します。
- 2 停電用コンセントに接続している機器を減らす
- 3 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける
 - パワーコンディショナが運転を再開します。



運転切替ボタン

パワーコンディショナを操作する(つづき)

● 復電時の操作(自立運転 → 連系運転)

停電時に自立運転に切り替えた場合、復電後は連系運転に切り替える必要があります。

- 連系運転に切り替える際、停電用コンセントに接続している機器は外してください。
- 夜間に復電した場合は、手順2のみを行ってください。翌朝、連系運転モードで運転を開始します。
- 計測ユニットの表示部に「ジリツウンテンチュウ」と表示されている時に、操作を行ってください。

1 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける

- パワーコンディショナの運転が停止します。



2 太陽光ブレーカをオンにする



3 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける

- 連系運転を開始すると、パワーコンディショナ運転ランプが緑色点灯し、表示部に「レンケイウンテンチュウ」と表示されます。

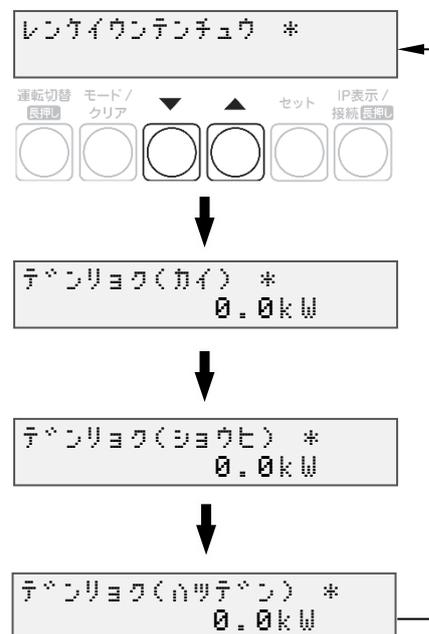


瞬時値確認を実施する

計測ユニットを操作して、現在のシステムの発電量を確認できます。

1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、▼/▲ボタンを押して瞬時値を確認する

- 計測ユニットの表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、運転状態を表示させてから▼ / ▲ボタンを操作してください。



ソフトウェアを更新する

計測ユニットのソフトウェア バージョンを更新することができます。
通常、ソフトウェアは自動的に更新されますが、現地で手動にて更新することも可能です。

- 手動にてソフトウェアを更新する場合は、あらかじめ更新ソフトウェアをインストールしたUSBメモリが必要です。(256MB~32GB、USB2.0準拠、FAT16/FAT32形式でフォーマットされたもの)
- ソフトウェア更新中は、キーを操作したり、電源を落としたり、USBメモリを取り外したりなどの機器操作をしないでください。

● 更新ソフトウェアの入手

1 パソコンで以下のサイトへアクセスする

<https://www.eco-megane.jp/partner/support/download/>

2 サイト内「RS 余剰 計測ユニット用ソフトウェア(出力制御対応)」項目よりソフトウェアをダウンロードする

- 本製品はエコめがねRS余剰プランの製品となります。全量モバイルパックRSのソフトウェアをダウンロードしないよう注意してください。

3 ダウンロードした ZIP ファイルを解凍する

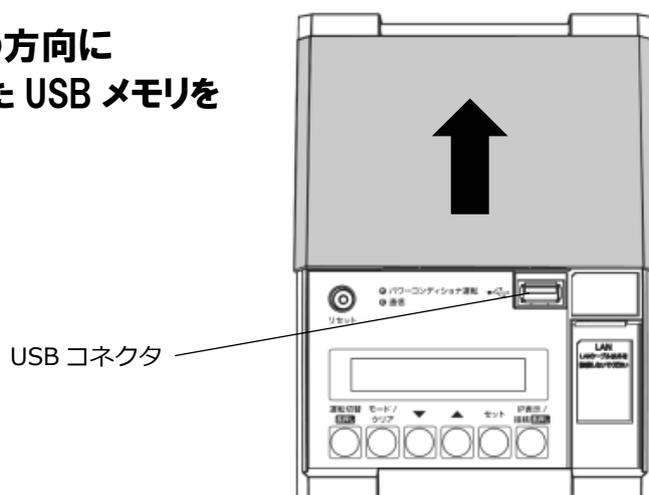
4 解凍することで表示される「Firm」フォルダごと USB メモリにコピーする

- 256MB~32GB、USB2.0準拠、FAT16/FAT32形式でフォーマットされたUSBメモリを使用してください。なお、セキュリティ機能搭載のUSBメモリは使用できません。
- USBメモリには「Firm」フォルダのみ格納してください。
「Firm」フォルダ以外のデータがあると、作業ができません。
- 「Firm」フォルダ内には対象ソフトウェアのみ格納してください。
対象ソフトウェア以外のデータがあると作業ができません。

ソフトウェアを更新する(つづき)

● ソフトウェアの更新

- 1 計測ユニットのスライドカバーを矢印の方向にスライドさせ、ソフトウェアが格納された USB メモリを USB コネクタへ接続する



- 2 計測ユニットの表示部が消灯している場合はいずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、セットボタンとモード/クリアボタンを同時に長押しする

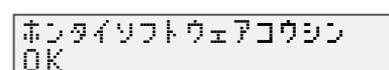
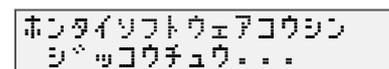


- 3 ▼ / ▲ボタンで「メーカーメニュー」を選び、セットボタンを2回押す

ソフトウェアを更新する(つづき)

4 セットボタンを押す

- ソフトウェア更新自体はパワーコンディショナの動作に影響を与えませんが、毎時 25～30 分、55～00 分の間は実績データに影響を与えますので更新作業をしないでください。
- ソフトウェア更新中はキー操作、電断、USBメモリを取り外すといった動作をしないでください。
- ソフトウェアが格納された USB を正しく接続していない場合、「カインデキマセン」表示となります。



5 本体ソフトウェア更新が OK となることを確認する

- ソフトウェア更新後、自動的に再起動がかかり、通常起動します。
- NGが表示された場合は、最初からやり直してください。
- ソフトウェアが正常に更新されたかを確認するには、ソフトウェアバージョンの確認 (P.62) を確認してください。

パワーコンディショナを交換・追加する

パワーコンディショナを交換・追加する場合は、新たにパワーコンディショナを登録する必要があります。
 パワーコンディショナは最大6台まで登録できます。

1 交換・追加するパワーコンディショナのユニット No.を設定する

- パワーコンディショナを交換・追加する場合は、新たに設置するパワーコンディショナのユニットNo.を設定します。

■ 交換する場合

パワーコンディショナを交換する場合は、交換前のパワーコンディショナと同じユニットNo.を、新たに設置するパワーコンディショナへ設定して下さい。

例：3台のシステム構成で2台目を交換する場合

接続台数	ユニットNo.	
	交換前	交換後
パワーコンディショナ1台目	1	1
パワーコンディショナ2台目	2	2
パワーコンディショナ3台目	3	3

交換前のパワーコンディショナと同じユニットNo.を設定する

■ 追加する場合

パワーコンディショナを新たに追加する場合は、新たなユニットNo.を追加設置するパワーコンディショナへ設定して下さい。

例：3台のシステム構成で4台目を追加する場合

接続台数	ユニットNo.	
	交換前	交換後
パワーコンディショナ1台目	1	1
パワーコンディショナ2台目	2	2
パワーコンディショナ3台目	3	3
(追加) パワーコンディショナ4台目	-	4

新たなユニットNo.を設定する

2 パワーコンディショナの終端抵抗を設定する

- パワーコンディショナを複数台接続する場合は、終端抵抗の設定が必要になります。
 (パワーコンディショナが1台の場合は終端抵抗の設定は必要ありません)
 詳しくは、「●パワーコンディショナの終端抵抗設定」P.29を参照ください。
- パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

3 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、モード/クリアボタンとセットボタンを同時に長押しする

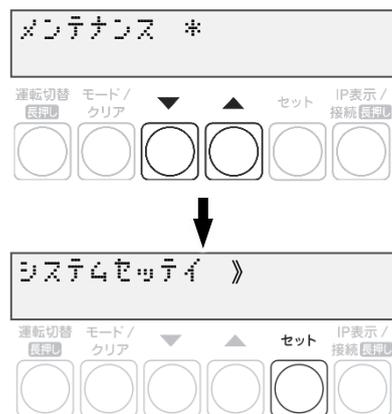


- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。

パワーコンディショナを交換・追加する(つづき)

保守

4 ▼ / ▲ボタンで「システムセッテイ」を選び、
セットボタンを押す



5 「PCSトウロク」が表示されている状態で、
セットボタンを押す

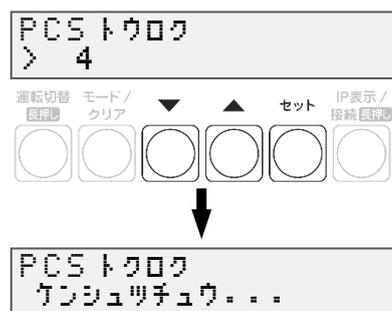


6 ▼ / ▲ボタンで「Yes」を選び、セットボタンを押す



7 ▼ / ▲ボタンで登録台数を選び、セットボタンを押す

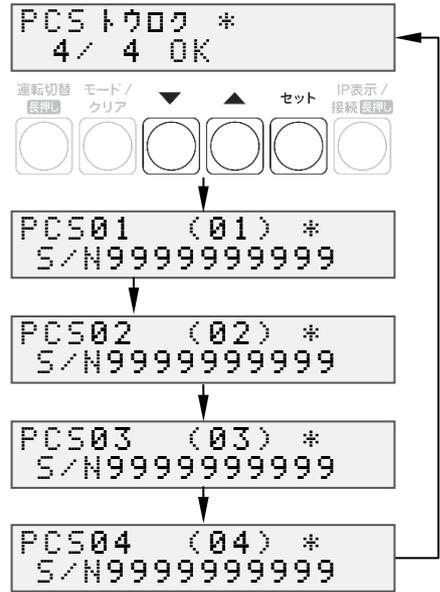
- パワーコンディショナの交換をおこなった場合
既存の登録台数のまま、自動検出をおこなってください。
- パワーコンディショナの追加をおこなった場合
既存の登録台数に新たに設置する台数を足した台数で
自動検出をおこなってください。



パワーコンディショナを交換・追加する(つづき)

8 パワーコンディショナが自動検出され、OKと表示された後にセットボタンを押す

- 自動検索後、「検出台数 / 登録台数」が表示され、OKと表示されることを確認してください。
- NGと表示された場合は、P.53をお読みください。
- 検出完了後、▼ / ▲ボタンで検索されたパワーコンディショナのシリアル Noを確認できます。



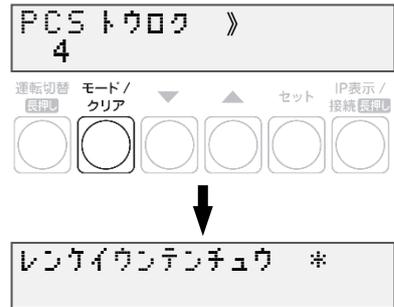
セットボタン↓で進みます

9 ▼ / ▲ボタンで「No」を選び、セットボタンを押す

- 本機能は使用しません。



10 パワーコンディショナの登録台数が正しいことを確認し、モード/クリアボタンを2回押す



👉 P.61 に記載の出力制御設定を行ったあとに、パワーコンディショナの追加を行った場合は、追加したパワーコンディショナの出力制御設定が必要です。再度出力制御設定を行ってください。

主幹用電流センサ、ケーブルを交換する

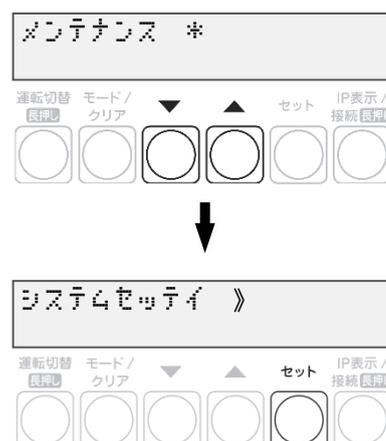
- 1 パワーコンディショナの運転スイッチをオフにする
- 2 計測ユニット用ブレーカをオフにする
- 3 計測ユニットのフロントカバーを取り外す
- 4 ■ 隠ぺい配線の場合：計測ユニット配線口のパテを取り外す
■ 露出配線の場合：配線ケーブルを固定している結束バンドを取り外す
- 5 交換する主幹用電流センサ、ケーブルを設置、配線する
- 6 計測ユニット用ブレーカをオンにする
 - 計測ユニットが起動します。

- 7 計測ユニットの表示部に「ウンテンテイシチュウ」が表示されている状態で、モード/クリアボタンとセットボタンを同時に長押しする

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。



- 8 「メンテナンス *」が表示されている状態で、▼ / ▲ボタンで「システムセッテイ」を選び、セットボタンを押す



主幹用電流センサ、ケーブルを交換する(つづき)

保守

- 9** ▼ / ▲ボタンで
「シユカンセンサ 》 ホウコウカクニン」を選び、
セットボタンを押す



- 10** 「●主幹用電流センサを設定する」(P.55) の手順 3 以降を実施する

- 11** ■ 隠ぺい配線の場合 : 計測ユニットの配線口をパテ埋めする(P.44)
■ 露出配線の場合 : 配線ケーブルを結束バンドで結束バンド差し込み口に
固定する(P.44)

- 12** 計測ユニットのフロントカバーを取り付ける(P.45)

- 13** パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

計測ユニットを交換する

既設の計測ユニットを取り外す

- 1 パワーコンディショナの運転スイッチをオフにする
- 2 計測ユニット用ブレーカをオフにする
 - 計測ユニットが停止します。
- 3 計測ユニットのフロントカバーを取り外す(P.26)
- 4 ■ 隠ぺい配線の場合：計測ユニットの配線口のパテを取り外す
■ 露出配線の場合：配線ケーブルを固定している結束バンドを取り外す
- 5 計測ユニットからすべてのケーブルを取り外す
 - ブレーカ側、パワーコンディショナ側、LTE ルータ側の配線は外さないでください。
 - 計測ユニットの端子台には、透明なプラスチック端子カバーがついております。取り外しの上、作業を実施してください。また、施工完了後は必ず端子カバーを付けてください。
- 6 計測ユニットを壁から取り外す

新しい計測ユニットを取り付ける

1 計測ユニットを設置する(P.25～P.26)

2 計測ユニットに配線する(P.27、P.38、P.42～P.43)

- 計測ユニットの端子台には、透明なプラスチック端子カバーがついております。取り外しの上、作業を実施してください。また、施工完了後は必ず端子カバーを付けてください。

3 計測ユニット用ブレーカをオンにする

- 計測ユニットが起動します。

4 ■ 隠ぺい配線の場合：計測ユニットの配線口にパテ埋めする(P.44)

- 露出配線の場合：配線ケーブルを結束バンドで結束バンド差し込み口に固定する(P.44)

5 フロントカバーを取り付ける(P.45)

6 パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

7 計測ユニットの初期設定を行う(P.49～P.58)

LTE ルータを交換する

既設の LTE ルータを取り外す

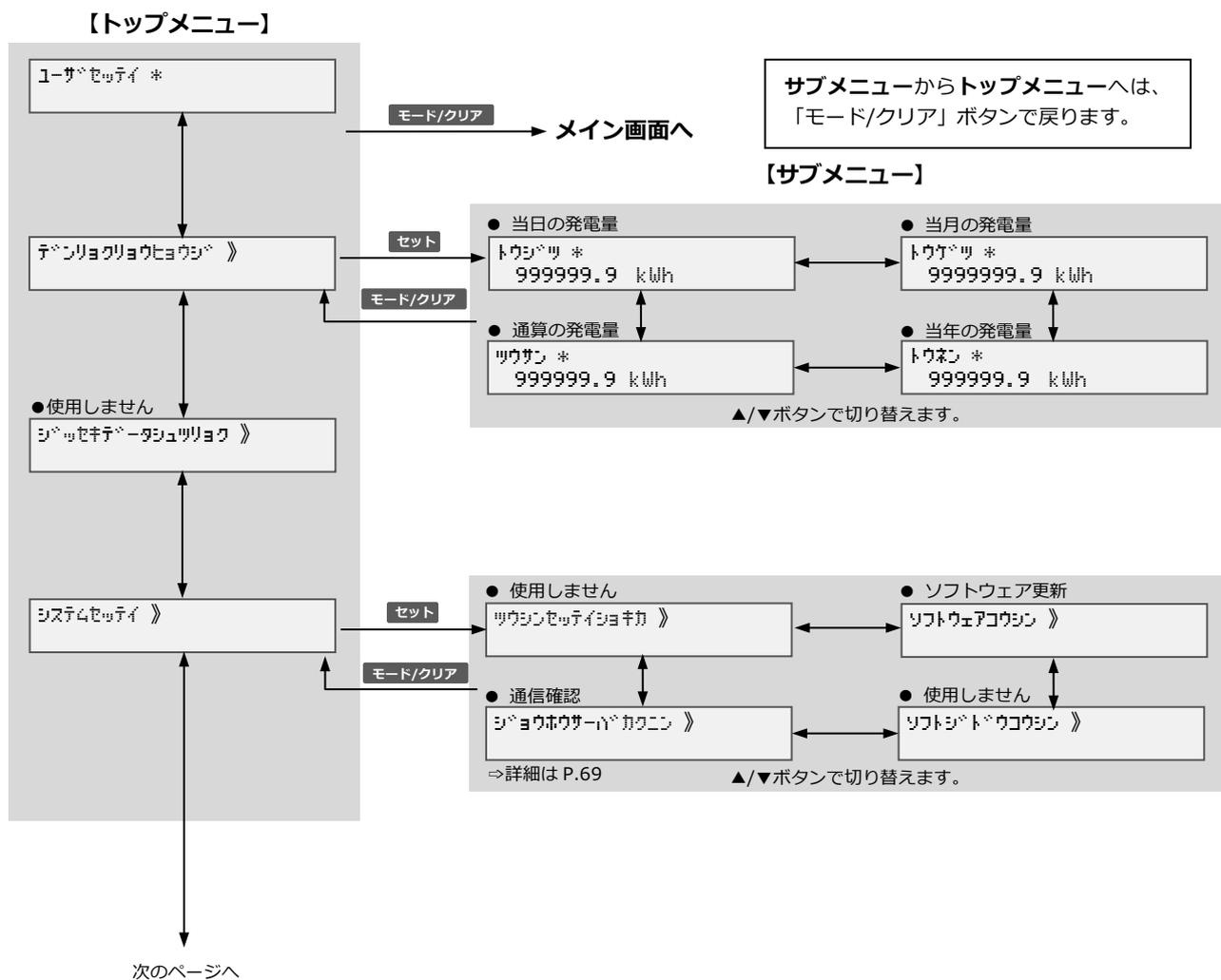
- 1 計測ユニット用ブレーカをオフにする
- 2 LTE ルータから LAN ケーブルを取り外す
- 3 AC アダプタのプラグをコンセントから抜き、LTE ルータを取り外す

新しい LTE ルータを取り付ける

- 1 新しい LTE ルータを設置して、LTE ルータと計測ユニットを LAN ケーブルでつなぐ (P.46～P.48)
- 2 計測ユニット用ブレーカをオンにする
- 3 通信確認を実施する (P.69～P.70)
 - 通信確認を実施し、「データカクニン OK」となることを確認してください。
「データカクニン NG ツウシンエラー」が表示される場合は、LTEルータのLEDランプから、動作状態を確認し(P.18、P.48)、原因を取り除いてください。
その後、通信確認を再度実施してください。

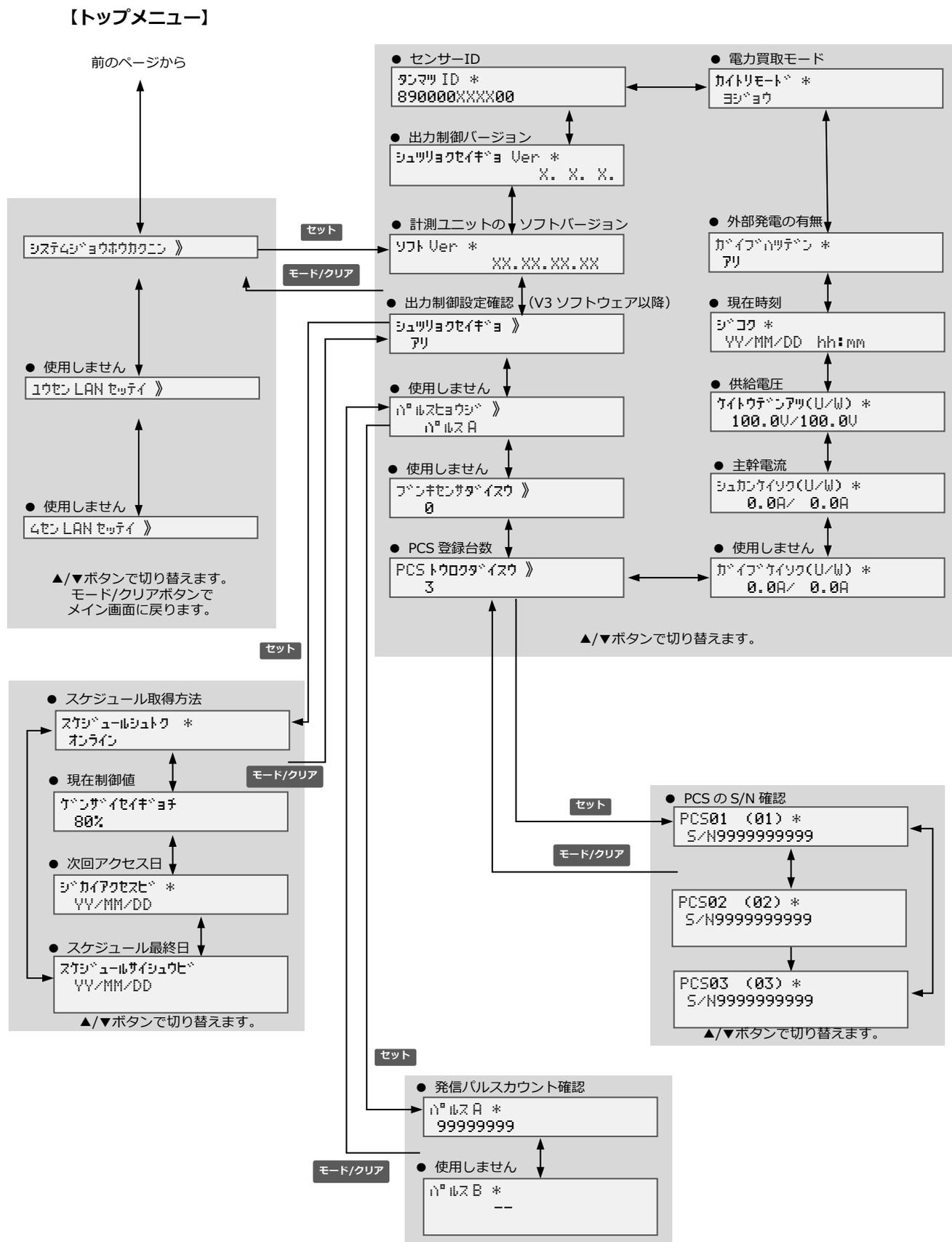
メニュー遷移(つづき)

ユーザ設定 メニュー遷移図



メニュー遷移(つづき)

ユーザ設定 メニュー遷移図(つづき)



販売元



NTT SMILE ENERGY

株式会社 NTT スマイルエナジー

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 2 丁目 6 番 18 号 淀屋橋スクエア 4F

06-6221-1234

お問い合わせ support@nttse.com

施工に関する
ご質問・ご相談は…

エコめがね
サービス
ヘルプデスク

050-3185-6842

受付時間

10:00 ~ 17:30

※年未年始・夏季休暇等の当社指定休日は除きます。